

i s p a c e

東証グロース市場: 9348

2026年3月期

Q1

決算説明資料

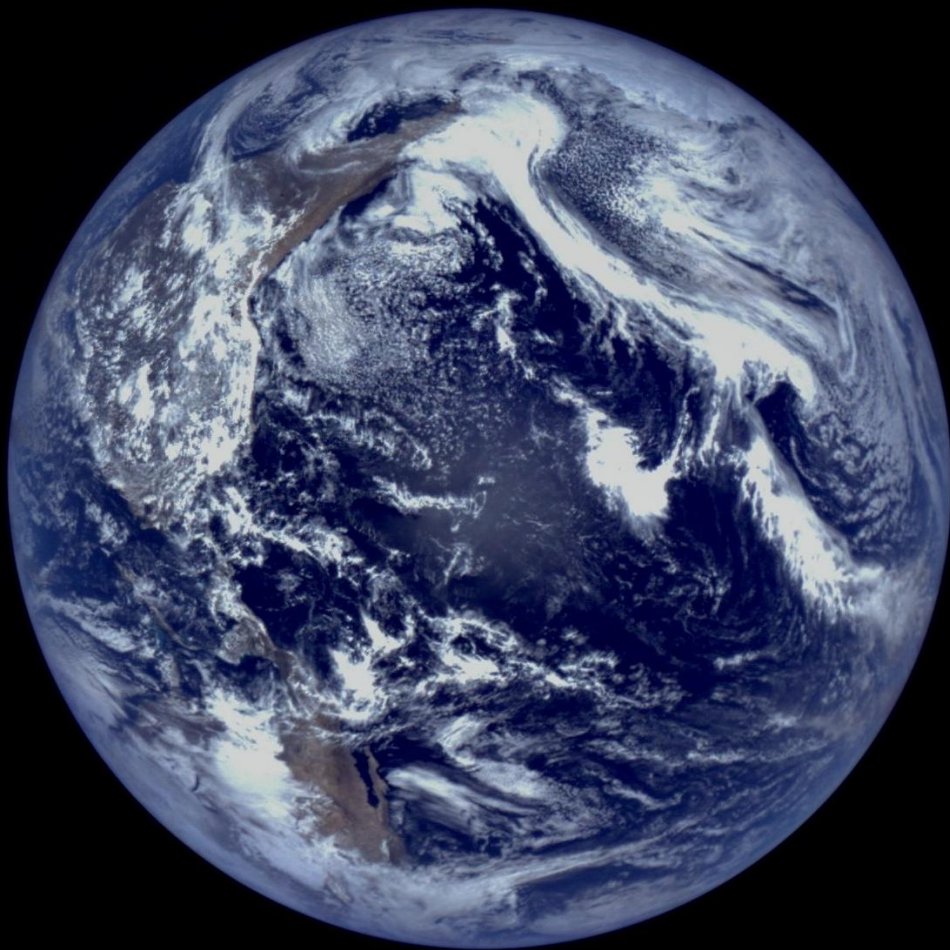
2025.08.08



# CONTENTS

- ▶ 01. エグゼクティブサマリ
- ▶ 02. 事業ハイライト
  - ミッション2の総括
  - ミッション3の進捗
  - ミッション4の進捗
  - ミッション計画
  - 将来ミッションの進捗
  - IR活動の状況
- ▶ 03. 財務ハイライト
- ▶ 04. Appendix





# 01.

## エグゼクティブサマリ

---

- ▶ 01. エグゼクティブサマリ
- ▶ 02. 事業ハイライト
- ▶ 03. 財務ハイライト
- ▶ 04. Appendix

## 2026年3月期 Q1の総括

### SMBC × HAKUTO-R VENTURE MOON Mission2

- **開発/運用**：ミッション終了（RESILIENCEランダーは垂直姿勢を確立した状態で降下を続けたものの、着陸予定時刻の約2分前にテレメトリが途絶し、その後ハードランディング）
- **営業**：総売上金額 \$14.5MM（総契約金額\$16MMのうち、\$1.5MMが着陸未達により逸失）で確定済
- **進捗**：着陸失敗の技術的要因をレーザーレンジファインダーのハードウェア異常と特定。着陸センサの見直しやJAXAからの技術支援拡張も含め、後続ミッションへの更なる改善反映に取り組む

### TEAM DRAPER COMMERCIAL MISSION 1 Mission3

- **開発**：CDR<sup>(1)</sup>を今年冬に予定
- **営業**：進行中。総契約金額 \$64MM
- **進捗**：2027年の打上げ<sup>(2)</sup>に向け、各サブシステムの試験が予定通り進行中

### METI SBIR Mission Mission4

- **開発**：PDR<sup>(3)</sup>進行中
- **営業**：進行中。総契約金額TBU<sup>(4)</sup>
- **進捗**：熱真空試験の実施に向けた熱制御系の設計や準備が順調に進行中。構造系では落錘試験を実施

## 将来ミッション/需要

- **日本**：宇宙戦略基金「月極域における高精度着陸技術」の公募が開始され、応札に向けて準備中
- **米国**：アルテミス計画の続行やCLPS予算が前年度同等額の予算が確保されることが確定
- **欧州**：ESAと約4億円の月面探査計画の契約を締結

## 財務

- **売上**：当社初のデータサービス売上を計上（M2）
- **現預金**：2025/5に三井住友銀行及びみずほ銀行から計150億円を調達し高い流動性を確保
- **純資産**：引き続き強化が必要

(1) Critical Design Review (CDR): 詳細設計審査会。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまでに実施した施策評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会で、当社の開発における重要マイルストーン

(2) 2025/8/8現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります

(3) Preliminary Design Review (PDR): 基本設計審査会。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会で、当社のランダー開発における重要マイルストーン

(4) To Be Updated（今後更新される予定）

# 02.

## 事業ハイライト

---

- ▶ 01. エグゼクティブサマリ
- ▶ **02. 事業ハイライト**
- ▶ 03. 財務ハイライト
- ▶ 04. Appendix

(2025年実施済)



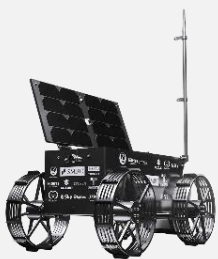
# Mission2 overview

## 使用したハードウェア



### RESILIENCE

- サイズ：高さ約2.3m、幅約2.6m (着陸脚を広げた状態)
- 重量：約1,000kg (Wet: 燃料装填時)、約340kg (Dry: 無燃料時)
- ペイロード積載可能容量：最大30kg



### TENACIOUS™

- デザイン：軽量かつロケット打上げ時等の振動に耐える頑丈性を実現
- 重量：約5kg
- ペイロード積載可能容量：最大1kg

## ミッション概要

- 月面着陸と月面探査に係る技術検証を企図したR&Dミッション
- 最終的な月面着陸は未達となるも、月周回軌道までの確かな輸送能力を実証
- 着陸未達の要因はレーザーレンジファインダー（以下LRF）のハードウェア異常
- 当該LRF含む着陸センサの見直しやJAXAからの技術支援拡張も含め、後続ミッションへの更なる改善反映に取り組む
- ペイロード契約においては、計上できる売上が\$1.5MM減少し総額\$14.5MMとなるも、返金・損害賠償等は発生せず、着陸未達による財務インパクトは限定的
- 当社**初のデータサービス売上 23百万円**を今期Q1で計上

## ペイロード顧客 確定済

(ロゴ左上から)

総売上金額：\$14.5MM<sup>(1)</sup>



- 民 高砂熱学工業：月面用水電解装置
- 民 ユーグレナ：藻類栽培装置
- 学 台湾国立中央大学：放射線量計
- 民 バンダイナムコ研究所：“宇宙世紀憲章”プレート
- 民 ミカエル・ゲンバーク氏：ムーンハウス（アート作品）

(1) 2025/8/8時点。数値は小数点以下切り捨て。総契約金額\$16MMのうち、\$1.5MMが着陸未達により受領できず、その分が売上減少。

# ミッション2 マイルストーン

i s p a c e

▶ **Success 1** ✓  
打ち上げ準備の完了  
2025/1/14 完了

Success 9のフェーズ4<sup>(1)</sup>を完了し、ランダーは  
垂直姿勢を確立した状態で降下を続けたものの、  
着陸予定時刻の約2分前にテレメトリが途絶（月面衝突）

(1) Success 9は6つのフェーズに分かれており、フェーズ4は減速噴射及び姿勢変更フェーズ

▶ **Success 2** ✓  
打ち上げ及び分離の完了  
2025/1/15 完了

▶ **Success 3** ✓  
安定した航行状態の確立  
2025/1/15 完了

▶ **Success 4** ✓  
初回軌道制御マヌーバの完了  
2025/1/17 完了

▶ **Success 5** ✓  
月フライバイの完了  
2025/2/15 完了

▶ **Success 7** ✓  
月周回軌道への到達  
2025/5/7 完了

▶ **Success 6** ✓  
LOI前のすべての  
深宇宙軌道制御マヌーバ  
の完了  
2025/4/24 完了

▶ **Success 8** ✓  
月周回軌道上での  
すべての軌道制御マヌーバ  
の完了  
2025/5/31 完了

▶ **Success 9**  
月面着陸の完了  
**未完**

▶ **Success 10**  
月面着陸後の  
安定状態の確立  
**未完**

## ミッション1同様、着陸フェーズにおける高度認識に課題を残す結果となったものの、その技術的要因はミッション1と異なり、変更パーツにおけるハードウェア上の問題が発生

### ミッション1（2022年打上げ）

### ミッション2（2025年打上げ）

#### 使用ランダー

**RESILIENCE**

- R&Dミッションであるミッション1とミッション2を通じて同モデル（RESILIENCEランダー）を活用
- ミッション1ではハードウェアが問題なく機能していたことを実証済み
- 旧サプライヤーの製造停止を受け、レーザーレンジファインダー（以下、LRF）のみ、ハードウェアをミッション1から変更

#### サクセス マイルストーン

- 10個のサクセスマイルストーンの内の、Success 8（月周回軌道上でのすべての軌道制御マヌーバの完了）まで成功。以降は未達

#### 問題箇所

- 高度認識に関する問題であったことは共通。その技術的要因はミッション1と2でそれぞれ異なる（ミッション1の問題は解決済み）

#### 技術的要因

- **ソフトウェア**（降着制御系アルゴリズム）に問題
- 着陸点の手前で5kmの急激なクレータ（崖）があることをアプローチパス上の地形とソフトウェアの検証へ取り込むことが十分にできていなかった

- **ハードウェア**（測距計のセンサであるLRF）に問題

- 想定されていた高度で機能せず、LRFによる高度測定に遅れが発生
- 降下時のLRF性能が事前の想定を下回った可能性や、航行中にLRFが故障・性能劣化した可能性等

#### 結果的に 生じた事象

- ランダーはクレータによる想定外の高度変化をセンサ異常と判断し採用せず、高さ5kmでホバリング。最終的には燃料が尽き月面へ落下

- LRFによる有効なデータの取得タイミングが遅れた結果、十分な減速が間に合わず、最終的に月面にハードランディングしたと考えられる

着陸失敗から概ね2週間で徹底的なテレメトリ解析を行い、LRF異常が技術的要因であることを特定。今後は立案した改善策の実行と共に、後続ミッションの開発の中で更なる要因分析を実施する予定

### LRFの有効データ取得の タイミングが遅れた要因（当社想定）

- 降下時のLRF性能が事前の想定よりも悪かった可能性
- 航行中にLRFが故障・性能劣化した可能性

### その背景として想定し得るもの（当社想定）

- ▶ アルベド（反射率）特性
- ▶ レーザー入射角・レーザー出力
- ▶ 高い速度での性能
- ▶ 放射線の影響による劣化



上記写真 赤枠がLRF。ランダーの側面に設置されている

### 上記の要因分析結果を踏まえた改善策

#### 着陸センサに係る改善策

- LRFを含む着陸センサの**検証戦略・計画の見直し**
- LRFを含む着陸センサの**選定・構成・運用の見直し**

#### 広範な改善策

- 第三者専門家を含む「**改善タスクフォース**」の立ち上げ
- 今後の開発プロセス上での**JAXAからの技術支援**の拡張

## 「改善タスクフォース」のメンバーを選定中。世界的に著名な二名の専門家による共同議長体制

- ・ 現時点で2名の共同議長から当タスクフォースへの参加を合意取得。他数名の外部メンバーを現在最終調整中
- ・ 近日中にタスクフォースを開催の後、ミッション2に関する当社分析結果へのレビューなどを今後一定期間をかけて実施していく予定



改善タスクフォース 共同議長  
**Olivier L. de Weck教授**

米・マサチューセッツ工科大学（MIT）のアポロ計画記念教授（宇宙工学）であり、航空宇宙学科の副学科長。研究分野はシステム工学で、特に複雑な技術システムの設計と進化に焦点を当てている。INCOSE（国際システム工学会）およびAIAA（米国航空宇宙学会）のフェローであり、学術誌『Journal of Spacecraft and Rockets』の編集長も務める



改善タスクフォース 共同議長  
**神武 直彦教授**

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。宇宙サービスイノベーションラボ事業協同組合代表理事。JAXA主任開発員、欧州宇宙機関訪問研究員を経て現職。文部科学省国立研究開発法人審議会宇宙航空研究開発機構部会長。宇宙開発利用部会調査・安全小委員会主査代理。元慶應義塾横浜初等部長。スタンフォード大学招聘教授（2025年9月より）

他複数の外部メンバーの参加を現在最終調整中

ミッション2の着陸未達による財務インパクトは限定的であり、260億円超（2025年6月時点）の手許現預金による資金の安定性も確保。現時点で後続ミッションのスケジュール変更も想定していない



### ミッション2のペイロード契約への影響

着陸未達により\$1.5MMの売上計上が未達<sup>(1)</sup>となる一方、ペイロード契約上の**返金・損害賠償等は発生しない**

### 後続ミッションの開発費への影響

ミッション3及び4における開発費の増加は、**合計最大約15億円の見立て**<sup>(2)</sup>

### 後続ミッションのスケジュールへの影響

ミッション3及び4において、ミッション2着陸未達を与える**スケジュールへの影響は無し**<sup>(3)</sup>

(1) 総契約金額\$16MMのうち、\$1.5MMが着陸未達により受領できず、その分が売上減少

(2) 2025/8/8時点の想定

(3) 2025/8/8時点の想定。なお、既に開示済のAgile Space Industriesとのエンジン共同開発に伴うミッション4のスケジュールへの影響は別途精査中

## 月面着陸は未達となったものの、ミッション2で得られた成果を将来ミッションへ確実に活用する方針

### 成果①

2度の月周回までの確かな輸送能力を実証

### 成果②

2度のミッションを通じて異なる条件下での着陸シーケンスデータを獲得

### 成果③

目標着陸地点との差は1km圏内。誘導制御機能を実証

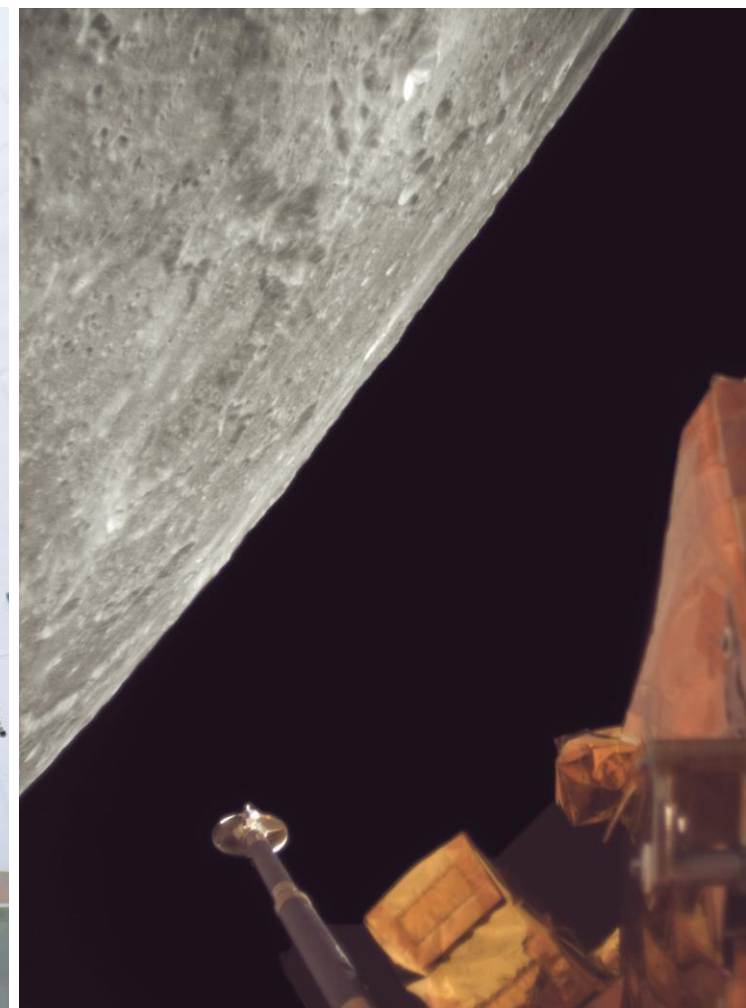
### 成果④

M1対比で開発・運用面の飛躍的効率化

- ・ランダー開発期間：約40%短縮
- ・ランダー開発コスト：約50%削減
- ・打上げ後から初期運用フェーズ完了までの期間：約60%削減

### 成果⑤

当社初のデータサービス売上23百万円をQ1で計上



(2027年打上げ予定)

**TEAM DRAPER**  
COMMERCIAL MISSION 1

# Mission3 overview

使用するハードウェア

ランダーCDR<sup>(1)</sup>を今年冬に予定

## リレー通信衛星

- ・ アルパインとルーパインと命名した、2機のリレー通信衛星を月周回軌道上で展開予定
- ・ ミッション3以降の顧客へのデータサービス提供を計画

## APEX 1.0

- ・ サイズ：高さ約3.3m、幅約4.5m（着陸脚を広げた状態）
- ・ 重量：約5,390kg（Wet: 燃料装填時）  
約1,730kg（Dry: 無燃料時）
- ・ ペイロード積載可能容量：最大300kg

## マイクロローバー

- ・ ミッション2に引き続き搭載予定

## ミッション全体像

- ・ 2027年に打上げを予定<sup>(2)</sup>
- ・ 最大300kgペイロード輸送が可能である商業ミッション
- ・ NASA CLPS<sup>(3)</sup> Task Order CP-12の採択ミッション
- ・ 月の裏側、南極付近へ着陸予定

## ペイロード顧客

営業進行中

契約総額：\$64MM<sup>(4)</sup>**Draper****CDS**  
WIRELESS

(ロゴ左から)

- ・  **官** NASA：複数実験機器の輸送と実験
- ・  **民** Control Data Systems SRL：超広帯域無線システム
- ・  **官** イタリア宇宙機関：レーザー反射鏡

(1) Critical Design Review (CDR): 詳細設計審査会。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまでに実施した施策評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会で、当社の開発における重要マイルストーン  
(2) 2025/8/8現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります  
(3) Commercial Lunar Payload Services。商業月面輸送サービス  
(4) 2025/8/8時点。数値は小数点以下切り捨てとなっています

## 2027年の打上げに向け、各サブシステムの試験が予定通り進行中

### リレー通信衛星の試験（写真上段）

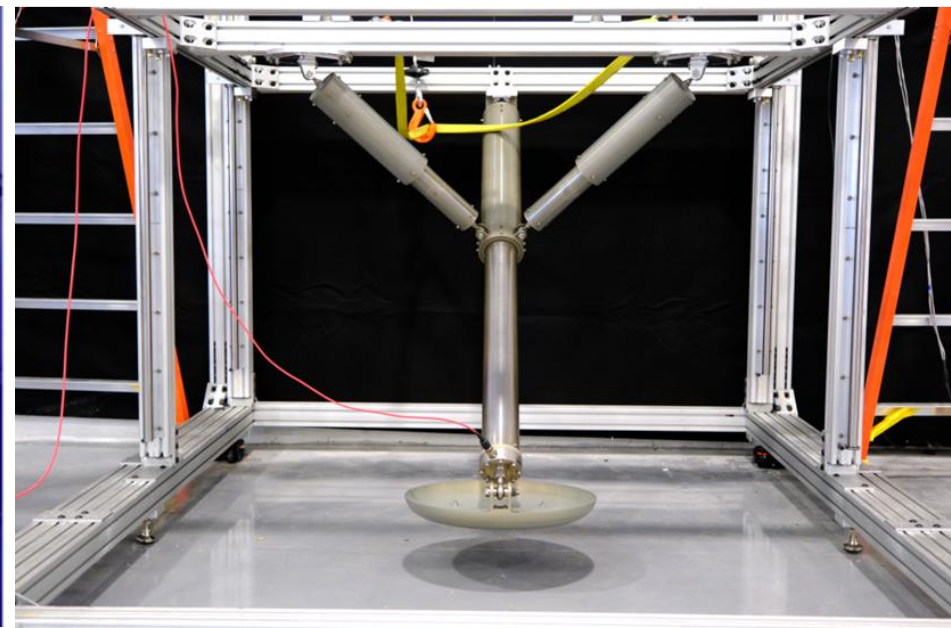
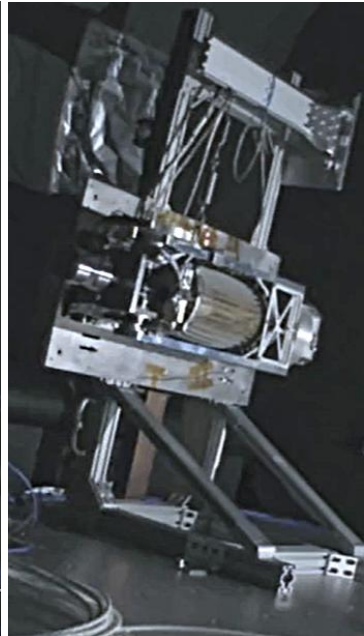
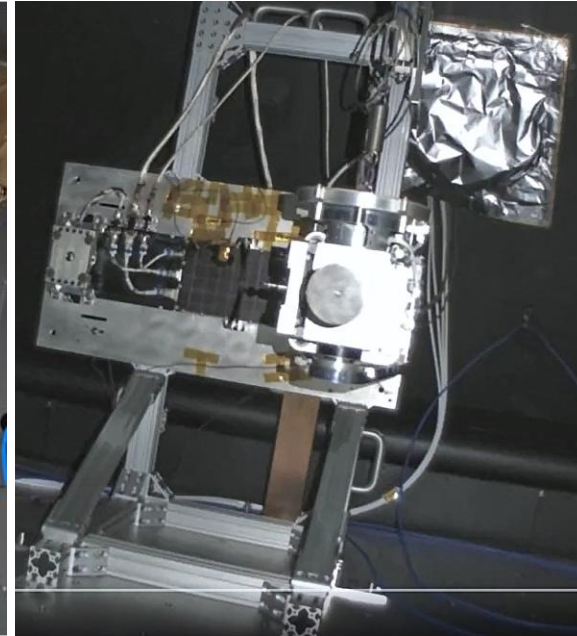
当ミッションで使用するリレー通信衛星「アルパイン」と「ルーパイン」の主要部材の熱真空試験を実施。試験は問題なく順調に完了

### 太陽光パネルの試験（写真左下）

太陽光パネルが米国人に届き、検査を実施している様子。検査は問題なく順調に完了

### 着陸脚の試験（写真右下）

当ミッションで使用するAPEX 1.0ランダーの着陸脚の試験の様子。想定荷重における衝撃吸収力が設計通りであるかを確認し、月面環境下でも適切に機能するかを検証するもの。試験は問題なく順調に完了



(2027年打上げ予定)

METI SBIR  
Mission

## Mission4 overview

使用するハードウェア

PDR<sup>(1)</sup>進行中Series 3<sup>(2)</sup>

- サイズ：高さ約3.6m、幅約3.3m（着陸脚を広げた状態）
- 重量：約1,000kg（Dry: 無燃料時）
- ペイロード積載可能容量：最大数百kg

ミッション全体像

- 2027年<sup>(3)</sup>に打上げ予定
- 宇宙戦略基金（第1期）採択テーマが初のペイロードに確定
- SBIR制度<sup>(4)(5)</sup>の最大額<sup>(6)</sup>となる120億円の補助金により開発費用の一部を確保（25/3期より営業外収益として計上開始。今後年度末に一括計上予定）

ペイロード顧客

営業進行中

契約総額：今後確定

JAXA  
「宇宙戦略基金」

JAXA：宇宙戦略基金 第1期「月面の水資源探査技術（センシング技術）の開発・実証」

※東京科学大学を代表機関とし、当社が中核的役割を担う研究開発課題が当テーマに採択

(1) Preliminary Design Review (PDR): 基本設計審査会。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会で、当社のランダー開発における重要マイルストーン

(2) 今後変更の可能性がある仮称。画像のデザインは今後変更の可能性があります

(3) 2025/8/8現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります。なお、既に開示済のAgile Space Industriesとのエンジン共同開発に伴うミッション4のスケジュールへの影響は別途精査中

(4) 経済産業省より採択。最低100kgのペイロードを月面輸送出来るランダーを開発し、2027年中に打上げることが要件

(5) 本補助金は一括受領ではなくSeries 3ランダーの開発支出にあわせて受領し、中間検査を行った上で営業外収益として計上されるもの

(6) 2025/8/8現在

## 熱真空試験の実施に向けた熱制御系の設計や準備が順調に進行。構造系では落錘試験を実施



経産省SBIR事業の補助により開発中の  
仮称Series 3ランダーの最新の熱構造モデルの写真



経産省SBIR事業の補助により開発中の  
仮称Series 3ランダーの落錘試験の様子

### 熱制御系・構造系の試験が進行中

- 8月中旬以降、熱制御系のインタフェース管理図面のレビューを行う予定であり、熱構造モデル<sup>(1)</sup>を用いた熱真空試験に向けての設計・準備が進行中（写真左側：最新の熱構造モデル）
- 構造系についても、熱構造モデルを用いた振動試験でのフィードバックをストラクチャーモデル<sup>(2)</sup>/フライトモデル<sup>(3)</sup>の設計へ反映するとともに、着陸脚が着陸時の衝撃に耐えられるかを確認する落錘試験を実施（写真右側）

(1) 宇宙環境を模擬した熱真空中での試験を行うためのモデル  
(2) ランダーの構造設計を固めるために使用されるモデル

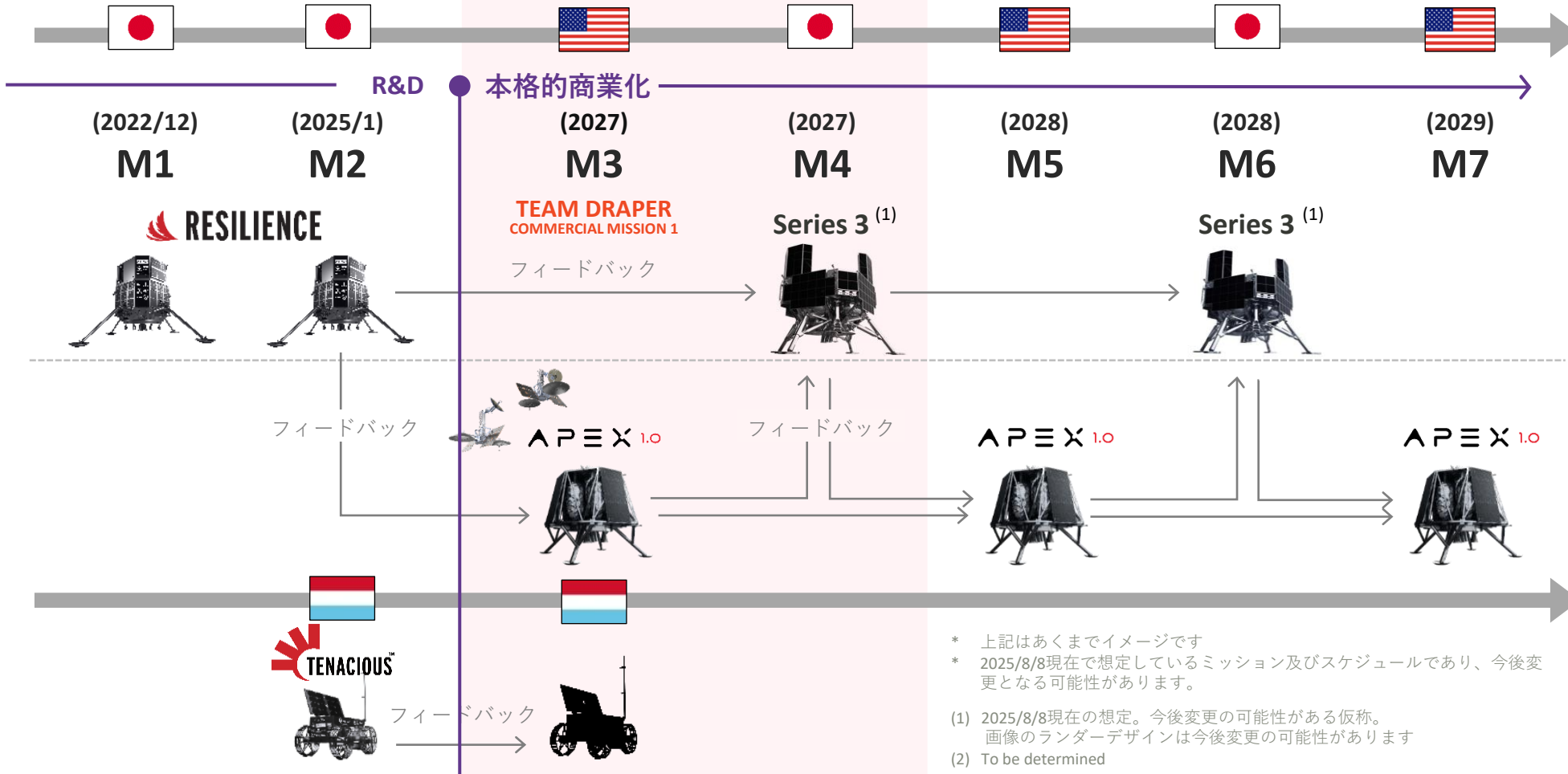
(3) 実際に打上げるモデル

大型資金を獲得済みで開発進行中

NASA CLPS  
CP-12: \$62MM

SBIR: 120億円  
宇宙戦略基金  
第1期: TBD<sup>(2)</sup>

新たなNASA CLPS案件の受注、  
宇宙戦略基金での採択、その他各国  
宇宙機関・民間企業からの受注を目指す



## POINT

- 日米で並行するランダー開発では、相互のフィードバック・サイクルを回し、一貫したランダークオリティの維持向上を担保
- ミッション2での学びをミッション3及び4に反映すべく、着陸センサの選定基準や試験計画を見直し中

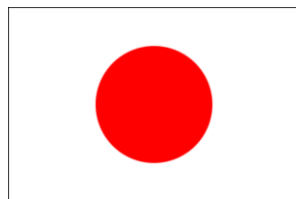
\* 上記はあくまでイメージです

\* 2025/8/8現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります。

(1) 2025/8/8現在の想定。今後変更の可能性がある仮称。  
画像のランダーデザインは今後変更の可能性があります

(2) To be determined

## 各国政府による、官民連携の民間宇宙開発支援の動きが引き続き加速中



**JAXA**  
宇宙戦略基金



**NASA**  
CLPS<sup>(1)</sup> program



**ESA/LSA**

### 宇宙戦略基金 第2期での採択を目指す

#### 獲得済みの日本政府案件

- 宇宙戦略基金 第1期：支援総額60億円の範囲内で今後確定予定
- SBIR補助金：120億円

#### 公募開始済/開始予定の宇宙戦略基金 第2期テーマ

- 月極域における高精度着陸技術：200億円
- 月面インフラ構築に資する要素技術：80億円

### 新たなCLPS案件の獲得を目指す

#### 獲得済み米国政府案件

- CLPS task order CP-12：89億円<sup>(2)</sup>

#### 今後公募されることが発表済みの案件

- CLPS task order CT-4
- CLPS task order CP-32

### ローバー開発への継続的な支援獲得を目指す

#### 獲得済み欧州政府案件

- LuxIMPULSE<sup>(3)</sup>：9億円<sup>(4)</sup>
- MAGPIE<sup>(5)</sup>：4億円<sup>(6)</sup>

#### 獲得を目指す将来案件

- LuxIMPULSE PIE<sup>(7)</sup>フェーズ：金額未確定
- MAGPIE後続フェーズ：金額未確定

(1) Commercial Lunar Payload Services。商業月面輸送サービス

(2) \$62MMを2025/6末時点のTTMレートを使用し円換算。小数点以下切り捨て

(3) ルクセンブルク政府の施策である「LuxIMPULSEプログラム」。当社欧州法人では、当支援を受けて、マイクロローバーの開発を行っている

(4) €5.8MMを2025/4末時点のTTMレートを使用し円換算。小数点以下切り捨て

(5) ESAと締結した、The Mission for Advanced Geophysics and Polar Ice Exploration (先端地球物理学および極域氷探査ミッション)に関する契約

(6) €2MMを2025/6末時点のTTMレートを使用し円換算。小数点以下切り捨て

(7) LuxIMPULSEの後続フェーズとなるPolar Ice Explorer (極域氷探査)

## ● 日本：宇宙戦略基金 第2期「月極域における高精度着陸技術」の公募が開始

### 技術開発テーマ

探査等（第二期）  
月極域における高精度着陸技術

### 目的

“月着陸機による月面ペイロード輸送サービスの提供を目指す我が国の民間事業者等を支援し、月面への着陸精度をSLIMと同等以上に向上させるとともに、着陸難易度のより高い月極域への着陸にも対応させることで、月のあらゆる場所への高精度着陸を可能とする技術を獲得すること”

### 支援規模<sup>(1)</sup>

1件あたり **200億円** 程度を上限とし、1件程度を採択

### スケジュール

- ・ 公募期間：2025年7月25日～2025年9月25日（正午）
- ・ 審査結果の発表：2025年12月中旬～2026年1月頃

### 獲得を目指すテーマの公募が開始

- ・ 当社が獲得を目指すテーマ「月極域における高精度着陸技術」の公募が7/25に開始。応札に向けて鋭意準備中
- ・ 本テーマに限らず、この他の技術開発テーマにおいても他社と協力する形で複数のテーマに応札中

宇宙戦略基金HPに記載の内容（[https://fund.jaxa.jp/techlist/theme2\\_16/](https://fund.jaxa.jp/techlist/theme2_16/)）をもとに当社作成

(1) 出典：資料1-4 宇宙戦略基金（第二期）実施方針 本文（素案）P.77

## ● 日本：宇宙戦略基金での活用等を視野に、ブリヂストンと中小型月面探査車向けタイヤの実用化を目指す



ブリヂストン BSJP直需タイヤ戦略企画/新モビリティ事業部門長太田正樹（左）とispace代表取締役CEO & Founder 袴田武史（右）

### 最速で2029年頃の実用化を共に目指す

- 宇宙戦略基金での活用等も見据え、当社とブリヂストンは中小型月面探査車向けタイヤの実用化に向けた基本合意書を締結
- 当社が研究開発を行う月面探査車のプロトタイプに、ブリヂストンが開発する柔らかく変形することで高い走破性と耐久性を提供する月面探査車用タイヤを装着し、地上での評価検証を実施予定。最速2029年頃の実用化を共に目指す



（左画像）  
ブリヂストンの月面探査車用  
タイヤのコンセプトモデル

## ● 日本：国際宇宙ビジネスカンファレンス「SPACETIDE 2025」に参加

### 当社展示ブースにて多くの関係者へ説明を実施



SPACETIDEは、アジア最大級の国際宇宙ビジネスカンファレンス。城内内閣府特命担当大臣（宇宙政策）が当社展示ブースに来訪し、CFO兼事業統括エグゼクティブの野崎が当社の足許のM2後の対応状況などをご説明

### SPACETIDE代表理事兼CEO 石田氏と袴田が共に登壇



「再起：月面開発の夜明け」と題されたセッションでは、宇宙戦略基金のプログラムディレクターでもあるSPACETIDE代表理事兼CEOの石田真康氏と当社代表の袴田が登壇。月面探査の未来について議論

## ● 日本法人の経営体制：宇宙ビジネスのスペシャリスト・神谷秀有がプログラム・事業開発室EVPに就任。 国内官民連携事業を推進



左から：JP Operations Office EVP 岡島雄、JP Engineering Office EVP 日達佳嗣、JP CEO 袴田武史、JP People Office EVP 今村健一、JP Programs and Business Development Office EVP 神谷秀有（新任）

### 日本拠点は5名のEVP（執行役）体制に

#### EVP神谷の略歴

- 過去、三菱商事株式会社において2度のワシントンDC 駐在や宇宙事業の責任者を務めるなど、約30年間に渡って国内外での宇宙・安全保障ビジネスの拡大を目指し、官民一体での事業発展に大きく寄与
- 今後、当社の日本法人において、国内における官民連携を軸とした加速度的な事業開発への貢献が期待されている

#### 今後の日本法人の体制

- 事業開発領域の神谷を新たにEVPとして迎え、5名の強固な体制を整えたうえで、日本政府との連携強化はもちろんのこと、国内の市場開拓を積極的に進める

## 米国：アルテミス計画の続行やCLPS予算が前年度予算要求額と同等額で確保されることが計画



上記画像は[NASA FY 2026 BUDGET TECHNICAL SUPPLEMENT](#)資料より引用

### アルテミス計画と月への投資は継続

- 不透明であった第二次トランプ政権下でも、民間企業の活用を通じた、より効率的なアルテミス計画の継続実施が計画
- 並びに、NASA CLPSプログラムに関しても2025年度の予算要求と概ね同等の250百万米ドルが付くことが計画
- 民間企業による商業サービスを活用した宇宙政策の積極的な推進や月面探査活動の継続が確定

## 欧州：万博ルクセンブルクパビリオンにて、ルクセンブルク皇太子臨席のイベントに代表袴田が登壇



### ギヨーム皇太子から力強いメッセージを受領

- 大阪・関西万博のルクセンブルクパビリオンにて、ギヨーム皇太子ご臨席のもと、ルクセンブルグ宇宙機関（LSA）主催の特別イベント「スペース・アフタヌーン」が開催
- ギヨーム皇太子はispaceのミッション2で月面着陸に挑戦したRESILIENCEランダーを引用し、「RESILIENCEとはランダーの名前だけではなく、宇宙探査における核となるコンセプトである」と、困難を乗り越える力が未来の宇宙開発に不可欠であることを強調
- 同イベントでは、CEO袴田が登壇し、持続可能な未来に向けた宇宙技術の役割について説明

## 🇪🇺 欧州：欧州宇宙機関（ESA）とローバーを使った月面探査計画の契約を締結



「MAGPIE」で使われるローバーのイメージ画像（Credit: ESA / P. Carril）

### 現行契約を拡張する契約

- 当社欧州法人は、ESAとローバーを使った月面探査計画「MAGPIE」に関する契約を2024年12月に締結。当該契約はプリフェーズAと呼ばれる段階の契約
- 2025年6月に、現行契約を拡張する形で、フェーズ1に移行
- ESAは、高度な技術と長期間を要する大規模な開発契約において、プロジェクトのフェーズに応じた段階的な契約形態を適用しており、本MAGPIEに関する契約も同様にフェーズ管理となっている
- プリフェーズA契約及びフェーズ1契約の合計で、約**€2MM（約437百万円<sup>(1)</sup>）**の契約金額

※ 本件の詳細は、2025/6/3開示の「[欧州宇宙機関（ESA）との契約に関するお知らせ](#)」をご参照ください

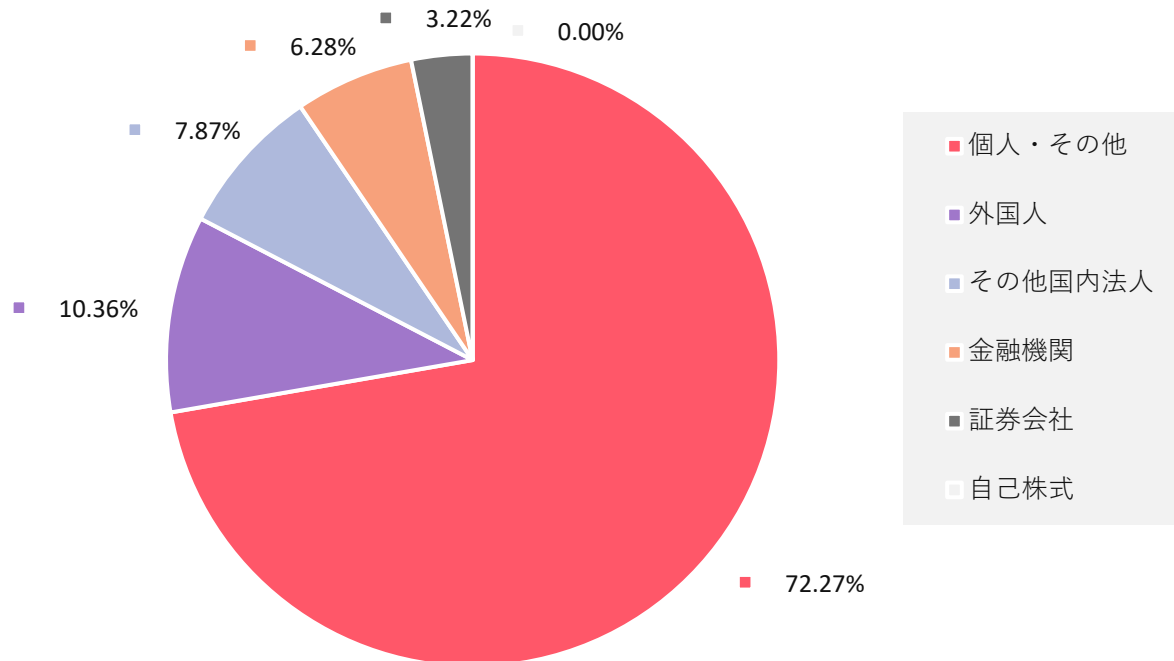
1. 2025/6末時点のTTMレートを使用し円換算。小数点以下切り捨て

3月末時点で8.1万人と非常に多くの株主様に支えていただいている状況。そのため、株主総会も株主様との対話を深められる構成を検討し実施

### 株式の状況（2025/3/31現在）

|         |                |
|---------|----------------|
| 発行済株式総数 | 105,675,203株   |
| 株主総数    | <b>81,257名</b> |

### 所有者別株式分布（2025/3/31現在）



### 大株主（上位10位）（2025/3/31現在）

| No. | 株主名                                | 所有株数<br>(株) | 持株比率<br>(%) |
|-----|------------------------------------|-------------|-------------|
| 1   | 袴田 武史                              | 9,000,000*  | 8.516       |
| 2   | インキュベイトファンド3号投資事業有限責任組合            | 5,992,580   | 5.670       |
| 3   | 株式会社日本政策投資銀行                       | 3,495,880   | 3.308       |
| 4   | 赤浦 徹                               | 2,636,603   | 2.495       |
| 5   | IF GROWTH OPPORTUNITY FUND 1, L.P. | 2,135,720   | 2.021       |
| 6   | 三井住友信託銀行株式会社                       | 1,968,500   | 1.862       |
| 7   | BOFAS INC SEGREGATION ACCOUNT      | 1,923,433   | 1.820       |
| 8   | 楽天証券株式会社                           | 1,612,000   | 1.525       |
| 9   | IFSPV1号投資事業組合                      | 1,174,880   | 1.111       |
| 10  | 吉田 和哉                              | 896,000     | 0.847       |

\* 代表取締役CEO 袴田の所有株式と持株比率が半期前（2024/9末時点）から3百万株減少しておりますが、2024/10/11に決議したエクイティ・プログラムにおいて割当先であるCVI Investments, Inc.と締結していた株式貸借契約に基づき、当該割当先（貸株先）が2025/2/17付で袴田から3百万株を借り入れたため、袴田の所有株式と持株比率が一時的に減少している経緯であり、袴田による当社経営のコミットメントには一切影響はございません

## 第15期株主総会にて総勢446名の株主様にご来場・オンライン参加いただき、貴重なご意見やご質問等を頂戴

### 第1部：ミッション2株主様向け報告会



- 当社CXOから株主様へ直接顔を合わせ、ミッション2のご報告を行うことが重要であると考え、着陸成否に関わらず第1部としてミッション2報告会を実施することは当初より計画
- 当日の当報告会では約70分間にわたり、446名の株主様にご参加いただき、当報告会の質疑応答では、厳しくも温かいご意見や激励のお言葉を多数頂戴しました

### 第2部：株主総会



- 約80分間にわたった第2部の株主総会においても、議案に関連するご質問として10個弱のご質問を受領
- 昨年度に続き、社内取締役としてCEO袴田及びCFO野崎、そして社外取締役として赤浦氏、川名氏、中田氏、畑田氏及び牧野氏の7名が選任され就任いたしました

### 社外取締役の決意表明

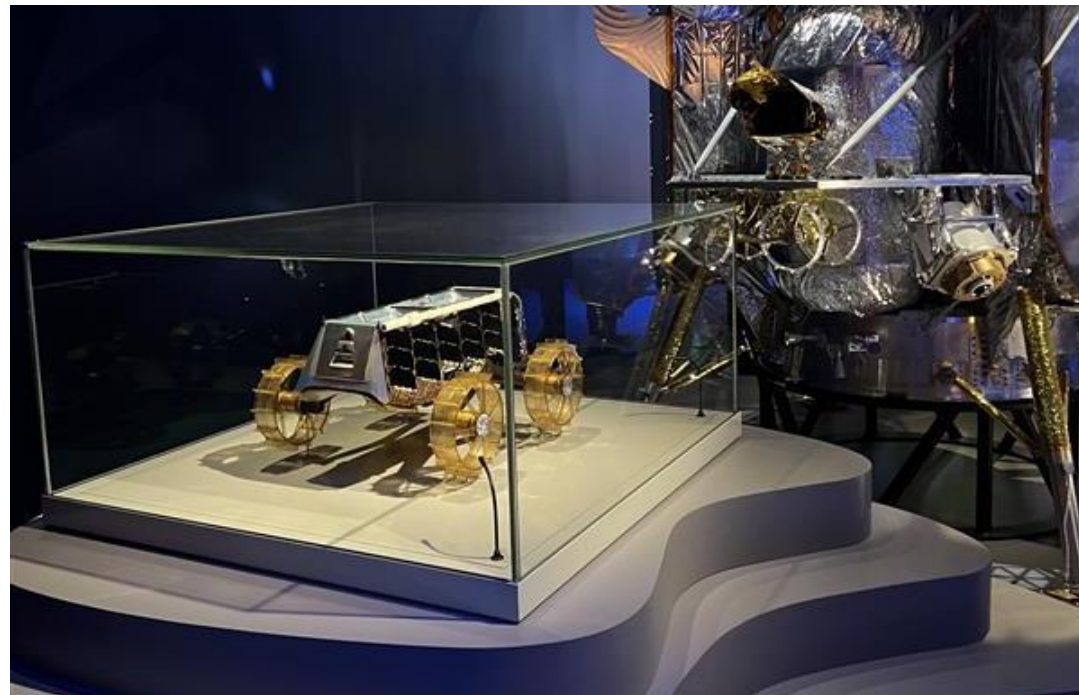


- 社外取締役5名がミッション2での着陸失敗という事実を踏まえた上での心情、今後の決意を表明
- 動画リンク：  
<https://youtu.be/dSBqgkOdVtc?si=Db5qUfUgWi1UzfkS>

## 2025/7/28より、ワシントンDCにあるスミソニアン航空宇宙博物館 “Futures in Space” ギャラリーでispaceが手掛けた「SORATO」ローバーの展示が一般公開！



スミソニアン航空宇宙博物館へ当社が寄付したSORATOローバーのフライトモデル  
(スミソニアン航空宇宙博物館HPより引用)



スミソニアン航空宇宙博物館で実際に展示されているSORATOローバーの写真

- Google Lunar XPRIZEに参加する日本チームHAKUTOとして手掛けた月面探査ローバー「SORATO」は、重量わずか4kgと当時で最も小型で軽量
- 宇宙産業における新しい可能性を切り開いたこと、民間の月探査への関心を高めたことなどがスミソニアン航空宇宙博物館に評価され、当社は2019年に同博物館へSORATOのフライトモデルを寄贈
- 2025/7/28に新たに展示が開始された、“Futures in Space” ギャラリーにてご覧いただけます（詳細は[スミソニアン航空宇宙博物館のHP](#)をご参照）



# 03.

## 財務ハイライト

---

- ▶ 01. エグゼクティブサマリ
- ▶ 02. 事業ハイライト
- ▶ **03. 財務ハイライト**
- ▶ 04. Appendix

ミッション3の開発進捗により前年対比で増収。概ね計画通りの進捗

|          | 2026年3月期 | 2025年3月期（前年度） |        | 2026年3月期（予想） |       |
|----------|----------|---------------|--------|--------------|-------|
| （単位：百万円） | Q1実績     | Q1実績          | 増減率    | 通期予想         | 進捗率   |
| 売上高      | 1,165    | 635           | 83.5%  | 6,200        | 18.8% |
| 売上総利益    | 231      | 107           | 115.9% | 500          | 46.2% |
| 売上総利益率   | 19.8%    | 16.9%         | -      | 8.1%         | -     |
| 販売管理費    | 2,475    | 2,402         | 3.0%   | 12,000       | 20.6% |
| 営業損益     | △2,243   | △2,295        | -      | △11,500      | -     |
| 経常損益     | △2,878   | △1,576        | -      | △8,300       | -     |
| 当期純損益    | △2,879   | △1,579        | -      | △8,300       | -     |

Point: 前年同期・業績予想との比較

- 売上高：  
ミッション3の開発進捗に伴い、前年同期比で大幅に増加。通期連結業績予想（以下、「業績予想」）対比の進捗率は概ね計画通り
- 売上総利益：  
売上計上基準の変更<sup>(1)</sup>により粗利計上が可能となったミッション2、パートナーシップ事業及びコンサルティング収入等の貢献により、前年同期比で大幅に増加
- 営業損益：  
人件費、広告宣伝費及び保険料を中心に販売管理費が微増したものの、増収効果により前年同期比で若干の増益となった。概ね計画通りの水準
- 当期純損益：  
当期純損失は、支払利息及び為替差損（△3億円）の影響により、△28億円の赤字。なお、**ミッション4に関連するSBIR補助金収入のうち、今年度を受領予定の分はQ4に営業外収益として一括計上される予定**

(1) ミッション2に関しては、売上計上基準が、2025年1月より原価回収方式から履行義務の進捗度に基づき収益を認識する方法に変更された

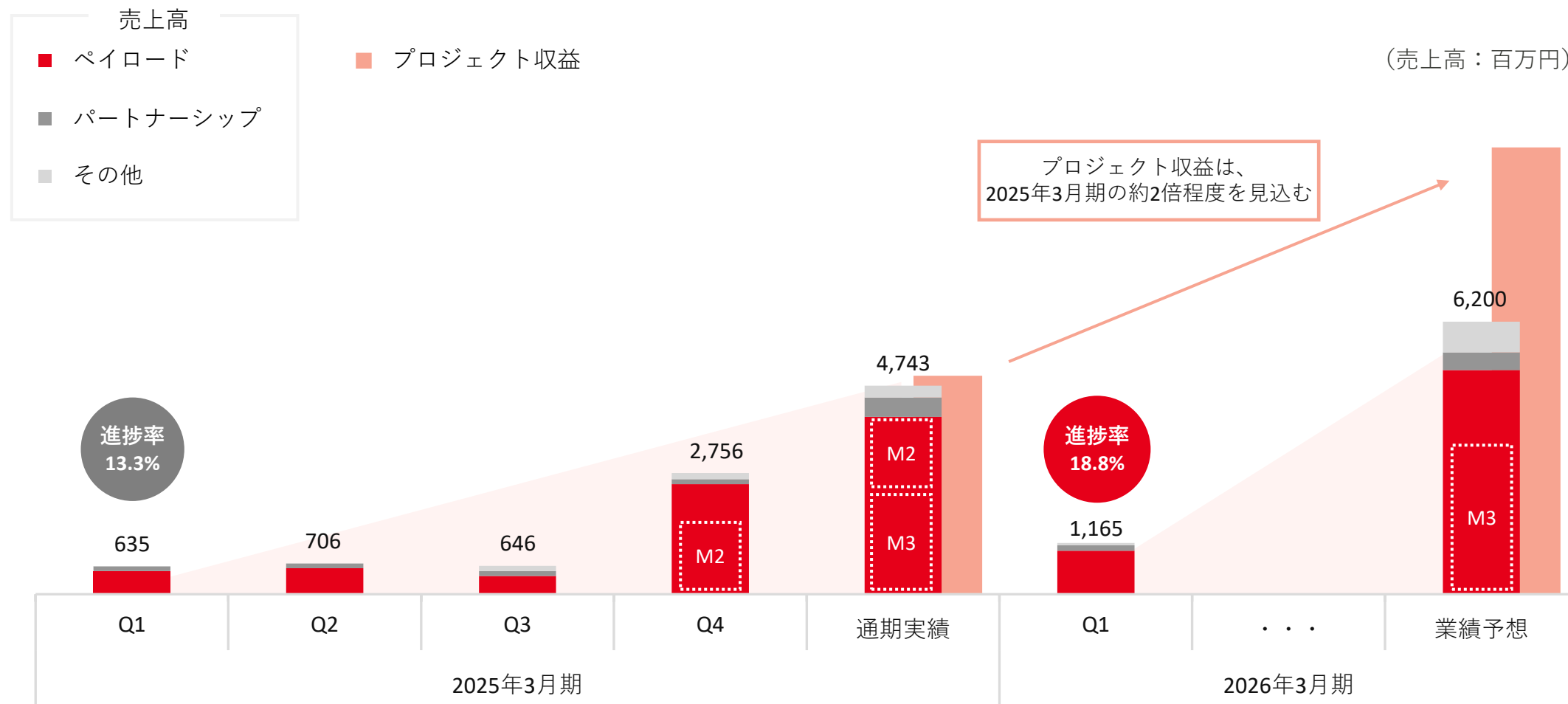
販売管理費は、ミッション2の開発完了に伴い研究開発費が減少するも、事業規模の拡大に伴う人件費の増加等により前年同期比から微増

| (単位：百万円) | 2026年3月期 | 2025年3月期（前期） |        |
|----------|----------|--------------|--------|
|          | Q1実績     | Q1実績         | 増減率    |
| 研究開発費    | 1,236    | 1,411        | △12.4% |
| 給料及び手当   | 518      | 475          | 9.1%   |
| その他      | 721      | 516          | 39.7%  |
| 販売管理費の合計 | 2,475    | 2,402        | 3.0%   |

Point: 前年同期との比較

- 研究開発費：  
R&Dミッションであるミッション2のランダー開発が完了したことに伴う開発費用の減少により、前年同期比で減少
- 給与及び手当：  
グループ全体の従業員数の増加（前年同期比+30名）に比例し、前年同期比9%の増加
- その他：  
主にミッション2関連の保険料及び広告宣伝費等が増加したことから、前年同期比で増加

引き続きミッション3からのペイロード売上が牽引し、Q1の売上は概ね計画通り進捗。SBIR補助金を便宜上加味した「プロジェクト収益<sup>(1)</sup>」ベースでは昨年度から約倍増を今年度目指す



(1) 会計上の売上高にSBIR補助金からの収入（営業外収益）を加えた当社試算数値

2025年5月に、三井住友銀行及びみずほ銀行との間で計150億円の融資を実行。手許現預金残高は264億円<sup>(1)</sup>となり、当座十分な流動性を確保



■ 株式会社三井住友銀行

- 借入金額：100億円
- 期間：3年8カ月
- 資金使途：運転資金
- 返済方法：期日一括返済
- 担保・保証：無担保・無保証



■ 株式会社みずほ銀行

- 借入金額：50億円
- 期間：3年8カ月
- 資金使途：運転資金
- 返済方法：期日一括返済
- 担保・保証：無担保・無保証

(1) 2025/6末現在

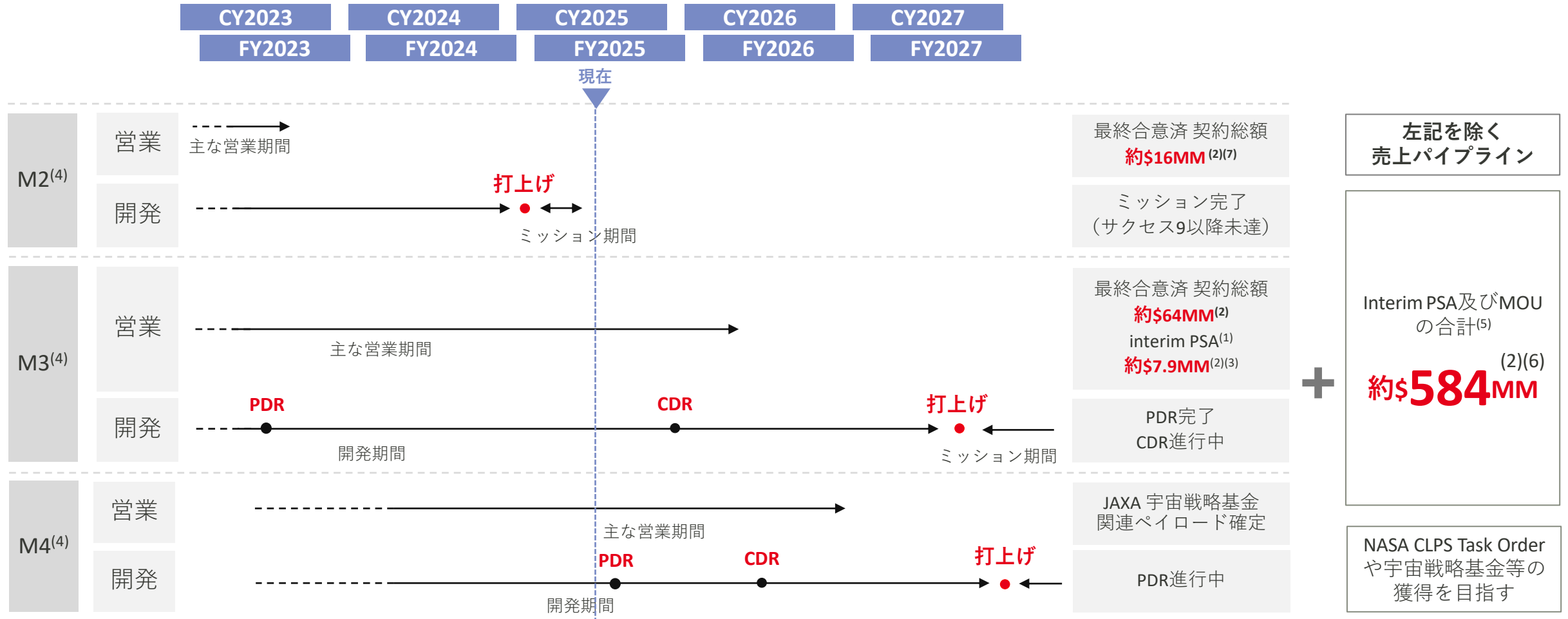
## 事業継続上必要な手元流動性は一定確保済み。引き続き純資産の強化の必要性が課題と認識

| (単位：百万円) | 2026年3月期 | 2025年3月期 |        |
|----------|----------|----------|--------|
|          | Q1 実績    | Q4実績     | 増減率    |
| 流動資産合計   | 30,742   | 19,067   | 61.2%  |
| 内現金及び預金  | 26,460   | 13,117   | 101.7% |
| 内短期前渡金   | 3,358    | 3,620    | △7.2%  |
| 固定資産合計   | 8,221    | 8,121    | 1.2%   |
| 内有形固定資産  | 4,804    | 4,859    | △1.1%  |
| 内長期前渡金   | 3,110    | 2,997    | 3.8%   |
| 資産合計     | 38,964   | 27,189   | 43.3%  |
| 流動負債合計   | 3,896    | 3,854    | 1.1%   |
| 内前受金     | 2,320    | 2,695    | △13.9% |
| 内短期借入金   | 500      | 0        | -      |
| 固定負債合計   | 31,293   | 16,326   | 91.7%  |
| 内長期借入金   | 31,095   | 16,096   | 93.2%  |
| 純資産合計    | 3,775    | 7,007    | △46.1% |
| (有利子負債)  | 31,595   | 16,096   | 96.3%  |

### Point: 前期末との比較

- 資産：
  - 現預金：新規借入により潤沢な流動性を確保
  - 前渡金：ミッション3の開発進捗に伴う、一部長納期品のコスト計上に伴い減少
- 負債：
  - 有利子負債：2025年5月に三井住友銀行及びみずほ銀行より合計150億円の借入を実施したことにより、前期末対比で大幅に増加
- 純資産：事業赤字により昨年度末対比で純資産が減少。エクイティバッファの強化が課題であり、新規契約獲得・費用削減等の事業面でのPL改善に注力しつつ、追加での資本増強策を慎重に検討

ミッション3のCDR及びミッション4のPDRが進行中。営業面では、引き続き約592百万米ドルの売上パイプラインからのinterim PSA<sup>(1)</sup>の最終合意化及び新規PSAの獲得を目指す



(1) Interim Payload Service Agreement ペイロードサービス中間契約：最終合意となるPSA契約を締結するための交渉の前提となる文書

(2) 2025/8/8時点。小数点第2位以下切り捨て

(3) ミッション4以降となり得る金額を含む。小数点第2位以下切り捨て

(4) ミッション3以降は現在の想定スケジュール

(5) 小数点以下切り捨て。上記のMOU及びinterim PSAは法的拘束力を有しないものであり、これらのinterim PSAに基づき法的拘束力のある契約

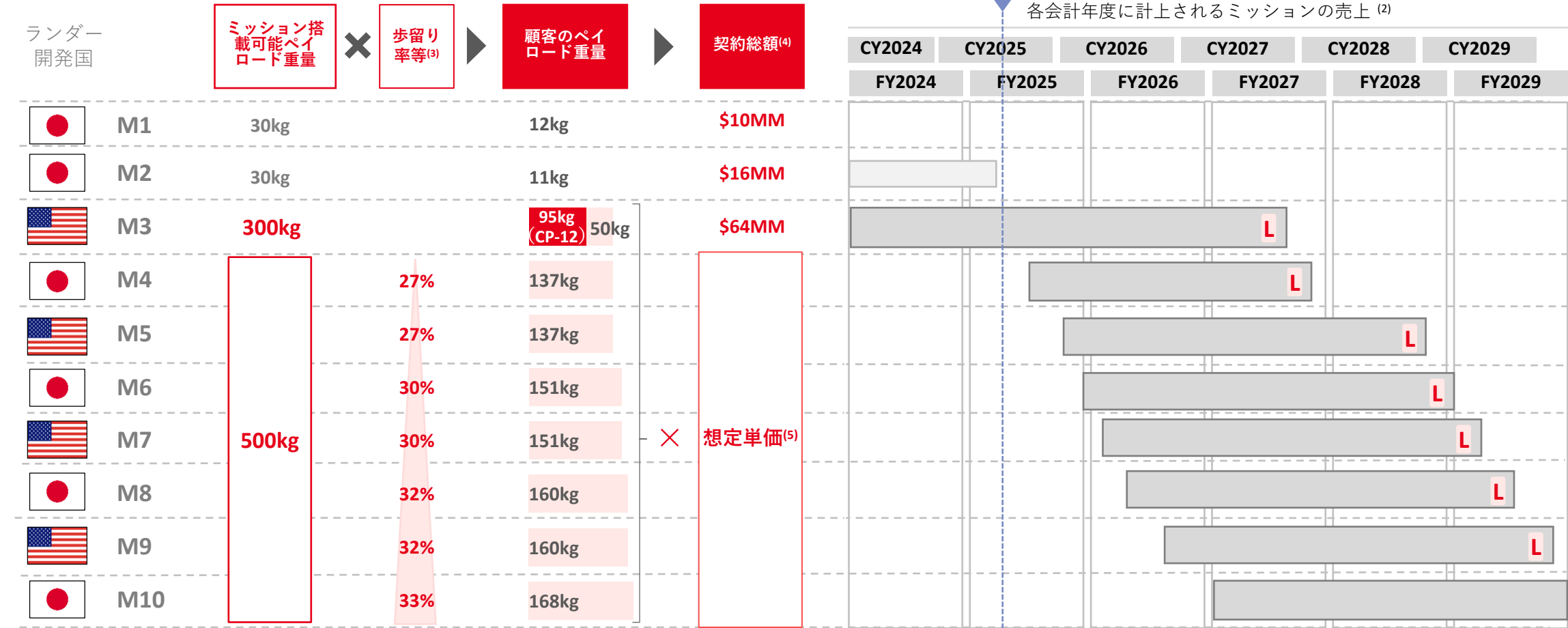
を締結できる保証はありません。また、仮に法的拘束力のある契約が締結されたとしても、当該契約に基づく重量及び金額は、本資料に記載された金額と異なる可能性もあります

(6) MOU及びinterim PSAの契約総額は、文書に記載された各契約額で集計（小数点以下切り捨て）。価格やペイロード量に幅がある場合は、低い方の数値を適用して契約金額を算出。また契約書に価格の記載がない場合、弊社が想定する標準サービス価格を適用して契約金額を算出

(7) 総契約金額\$16MMのうち、\$1.5MMが着陸未達により受領できず、その分が売上減少。

ペイロードサービスのビジネスモデルイメージ

イメージであり、変更される可能性があります。また、全ての数値は小数点以下切り捨てとなっています



(1) 本資料は、将来のペイロード・サービスに関して、一定の仮定に基づき想定している現時点のイメージであり、ミッションの内容・時期その他の詳細は実際の将来の結果とは異なる可能性があります

(2) 2025/8/8時点の打上げ予定に基づきます。このスケジュールは変更される可能性があり、計画通りに進行しない可能性もあります

(3) 顧客のペイロード重量が設計上のミッション搭載可能ペイロード重量に占める割合であり、一定程度のバッファーを見込んだ値となっています。主に次の3つの要因により制約を受けます。①開発における不確実要因（ランダー側の不確実要因、顧客ペイロード事由の不確実要因（インターフェース調整等））、②販売成功率（需要及び販売能力の不確実性）③インターナル・ペイロード重量（当社が使用する

ペイロード重量）

(4) ミッション1、2、3については、2025/8/8時点の各PSAに基づく契約金額を記載しています。なお、ミッション1については、総契約金額\$10MMのうち、\$0.7MMが着陸未達により受領できず、その分が売上減少。また、ミッション2については、総契約金額\$16MMのうち、\$1.5MMが着陸未達により受領できず、その分が売上減少。

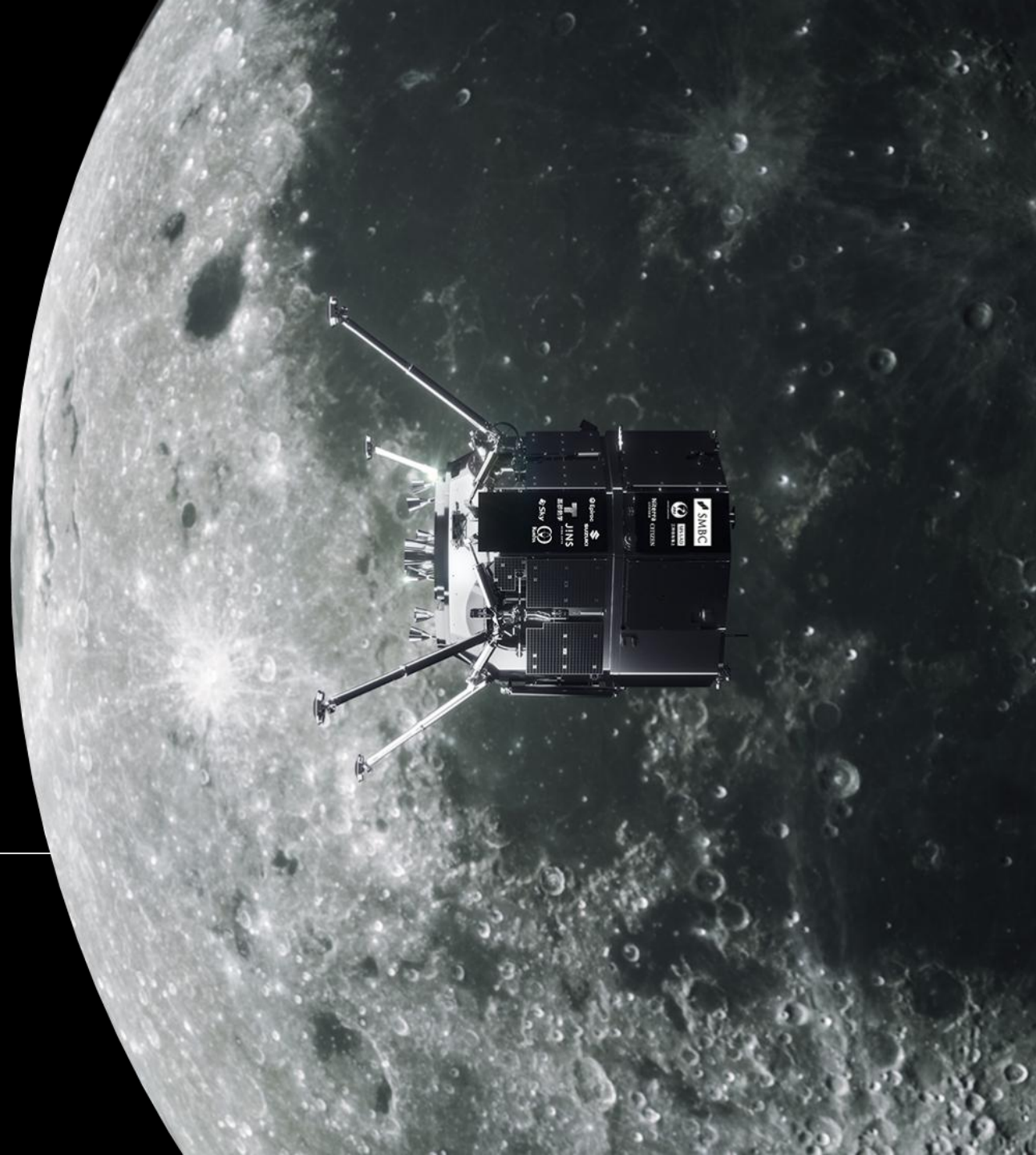
(5) 2025/8/8時点のペイロードの想定単価は約1.5MMドル/kgであり、この想定単価は今後一定程度逡減していくと当社は見込んでいます

ispace

# Never Quit the Lunar Quest

私たちは歩み続けます。

IRに関するお問い合わせ: [ir@ispace-inc.com](mailto:ir@ispace-inc.com)



# 04.

## Appendix

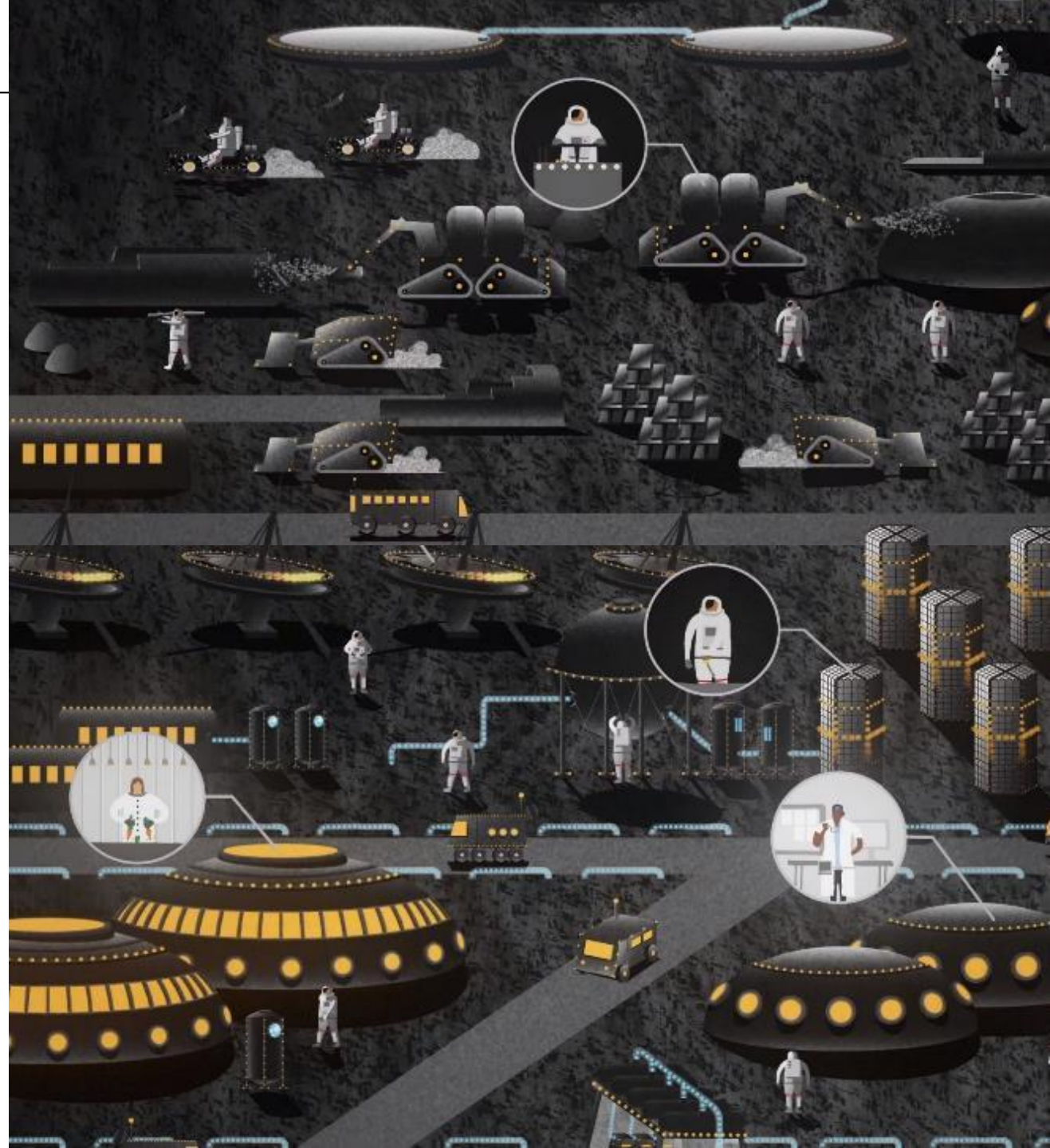
---

- ▶ 01. エグゼクティブサマリ
- ▶ 02. 事業ハイライト
- ▶ 03. 財務ハイライト
- ▶ **04. Appendix**

## EXPAND OUR PLANET. EXPAND OUR FUTURE.

地球と月がひとつのエコシステム  
となる世界を築くことにより、  
月に新たな経済圏を創出する

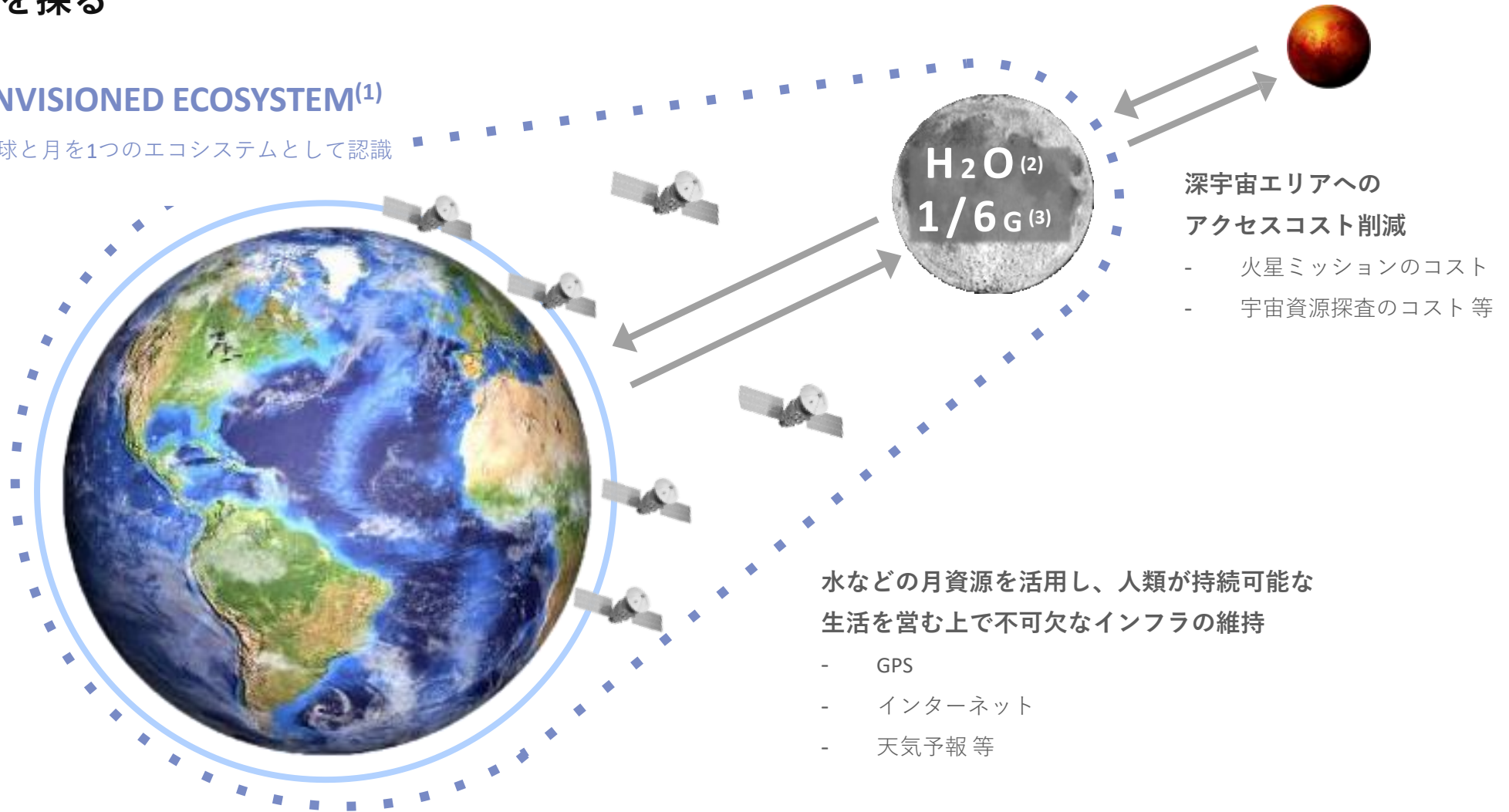
- “Moon Valley 2040” はispaceのビジョンであるEXPAND OUR PLANET. EXPAND OUR FUTURE. の世界観を表したものです。
- 2040年代までに1,000人が月面に居住し年間10,000人が月に訪れる世界を構想しています。
- 月に存在するとされる水資源を中心に、建設・製造・エネルギー・通信など様々な業界の後押しを受け、月面のインフラが確立され得ると考えています。
- 人間の生活圏を宇宙にまで拡大し、地球と月がひとつのエコシステムとなる世界を築くことを長期のゴールとしております。



## 月に存在するとされる水資源を活用することで、宇宙における「燃料補給中継基地」としての月の可能性を探る

### ENVISIONED ECOSYSTEM<sup>(1)</sup>

地球と月を1つのエコシステムとして認識



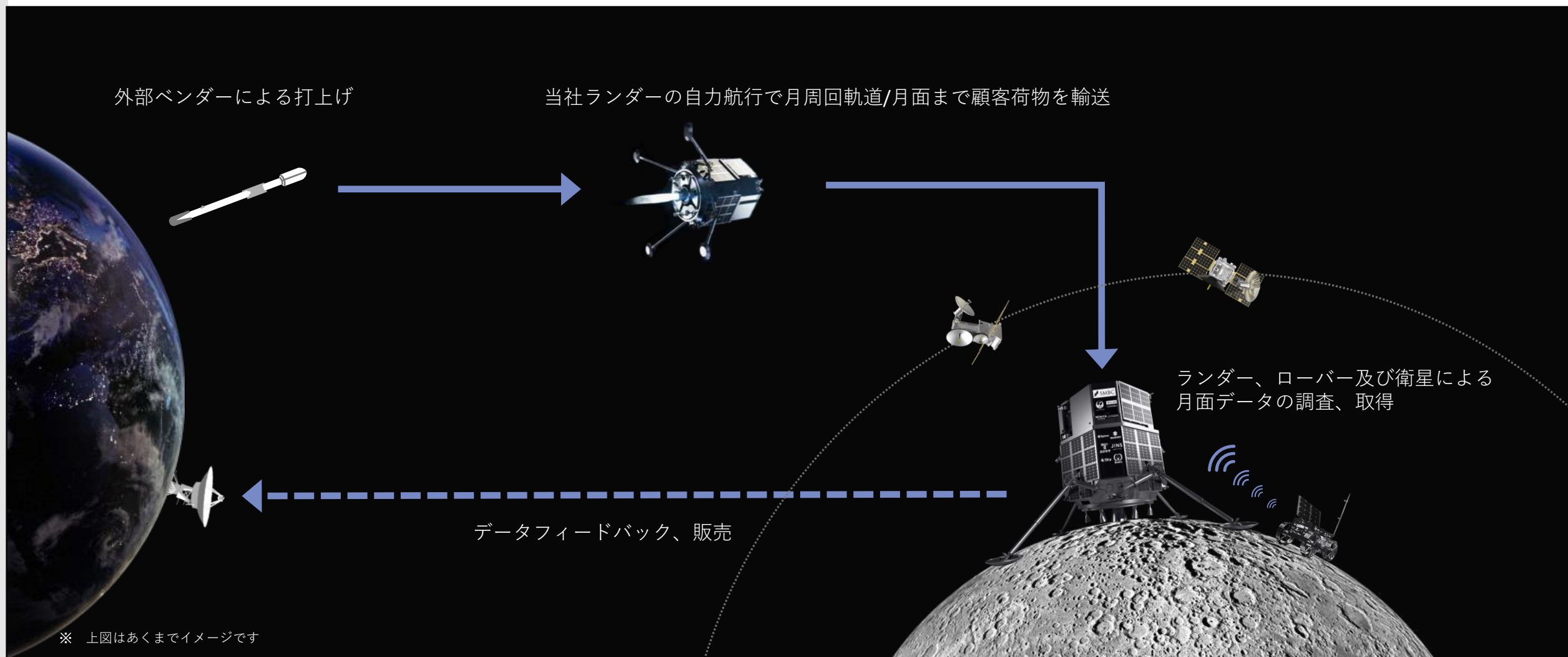
(1) 上図はあくまでイメージです

(2) 研究によると水は月に広く分布している可能性が示唆されています。月面で抽出した水を水素と酸素に電気分

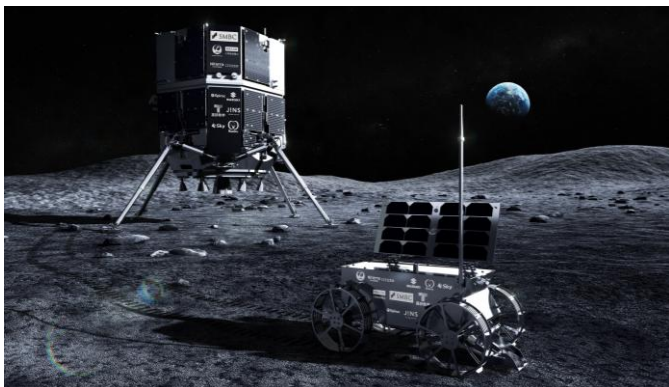
解し、燃料源として利用できる可能性があると考えています

(3) 月は地球の1/6の重力しかないため、月の打上げコストは理論上地球より低くなります

外部ベンダーを利用し、打上げたランダーは自力で月へ航行し、着陸後はランダー及びローバーによって月面データを調査、取得する



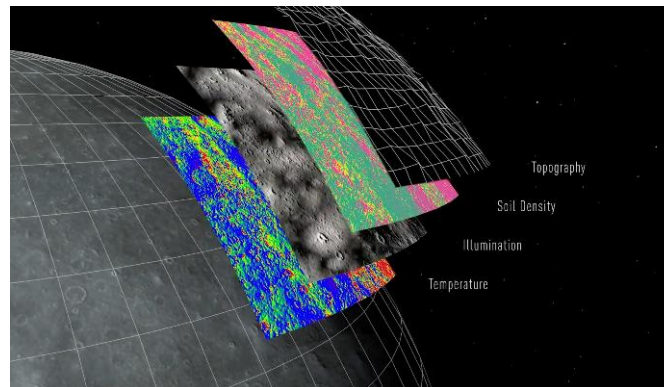
## ペイロードサービス及びパートナーシップサービスが現在のビジネスの中核今後新たにデータサービスの確立を見込む



### ペイロードサービス

#### 当社の売上高を牽引する中核サービス

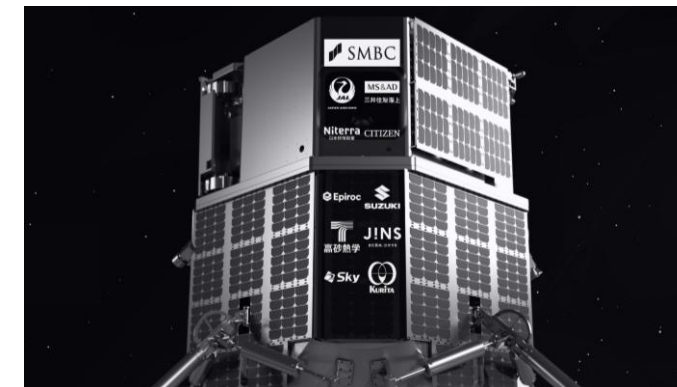
- 顧客の荷物を預かり、月周回軌道/月面まで輸送するサービス
- 顧客は必要な実験等を実施の上、月周回軌道/月面のペイロードから必要なデータを獲得



### データサービス

#### 今後の成長ドライバー

- 当社の自社ペイロードを使って顧客は必要なデータを獲得
- 将来的には、高頻度なミッションにより蓄積されたデータベースへのアクセスを顧客に提供する計画
- 26年3月期Q1より売上計上を開始



### パートナーシップサービス

#### 創業時から続くサービス

- ispaceのランダー及びローバーにスポンサーとしてロゴを掲載し、顧客のマーケティングを支援
- また各社は技術面や事業開発面で、当社と協業を実施

当社が公表しているミッションスケジュール<sup>(1)</sup>

|      |                                                                                                        |                                                                                     |                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 2022 | i s p a c e                                                                                            |    | <b>Mission 1 (実施済)</b> |
| ⋮    |                                                                                                        |                                                                                     |                        |
| 2025 | i s p a c e                                                                                            |    | <b>Mission 2 (実施済)</b> |
| ⋮    |                                                                                                        |                                                                                     |                        |
| 2027 | i s p a c e - U.S.    |    | <b>Mission 3</b>       |
|      | i s p a c e                                                                                            |    | <b>Mission 4</b>       |
| 2028 | i s p a c e - U.S.    |    | <b>Mission 5</b>       |
|      | i s p a c e                                                                                            |   | <b>Mission 6</b>       |
| 2029 | i s p a c e - U.S.  |  | <b>Mission 7</b>       |
|      | i s p a c e                                                                                            |  | <b>Mission 8</b>       |
|      | i s p a c e - U.S.  |  | <b>Mission 9</b>       |

# Mission2

January 15, 2025

ケープカナベラルにて、RESILIENCEランダーを搭載した SpaceXのFalcon 9ロケットが打上がる様子



<sup>(1)</sup> 2025/8/8時点。上記は現在想定しているミッション及びスケジュールであり、変更となる可能性があります

(2022年実施済)

# Mission1 overview

## ミッション概要

- 2022年、**営利企業として初の月着陸船**の打上げに成功

### 技術的な成果

- **大部分のランダーハードウェアの実証に成功**
- 最終的な月面軟着陸に至らなかった要因はソフトウェア上の問題。2023年時点で**既に原因を解明し、ミッション2に向けた改善**を実施

### 持続可能なビジネスモデルの実証

- 軟着陸の失敗によるペイロード顧客への**返金は発生せず**。  
ミッション1完了後も、新規顧客及び既存顧客からの引き合いが継続中
- **世界初の月保険**をパートナー企業と共に組成し、2023年8月に37億円<sup>(1)</sup>の保険金を受領

## 使用したハードウェア



### (旧) Series 1ランダー

- サイズ：高さ約2.3m、幅約2.6m (着陸脚を広げた状態)
- 重量：約1,000kg (Wet: 燃料装填時)、約340kg (Dry: 無燃料時)
- ペイロード積載可能容量：最大30kg

## ペイロード顧客

確定済

(ロゴ左上から。カナダの2社はロゴなし)

総売上金額：\$9MM<sup>(1)</sup>

Niterra

مركز محمد بن راشد  
للفضاء  
MOHAMMED BIN RASHID SPACE CENTRE

JAXA

- 日本特殊陶業：固定電池
- MBRSC：月面探査ローバー
- JAXA：変形型月面ロボット
- Mission Control Space Services：AIのフライトコンピュータ
- CanadensysAerospace：カメラ

(1) 総契約金額\$10MMのうち、約\$0.7MMが着陸未達により受領できず、その分が売上減少

## ミッション1について－サクセスマイルストーン

最終的な月面着陸にまで至らなかったものの、設定した10のマイルストーンのうち8までを達成。  
着陸直前までの間に貴重な航行データを収集

Success 1 ✓  
打上げ準備の完了  
[2022/11/28に達成]

Success 2 ✓  
打上げ及び分離の完了  
[2022/12/11に達成]

Success 3 ✓  
安定した航行状態の確立  
[2022/12/16に達成]

Success 4 ✓  
初回軌道制御マヌーバの完了  
[2022/12/15に達成]

Success 5 ✓  
深宇宙航行の安定運用を  
1か月間完了  
[2023/1/11に達成]

Success 6 ✓  
月周回軌道投入前の全ての  
深宇宙軌道制御マヌーバの完了  
[2023/3/18に達成]

Success 7 ✓  
月重力圏への  
到達/月周回軌道への到達  
[2023/3/21に達成]

Success 8 ✓  
月周回軌道上での  
全ての軌道制御マヌーバの完了  
[2023/4/14に達成]

Success 9  
月面着陸の完了  
[未達]

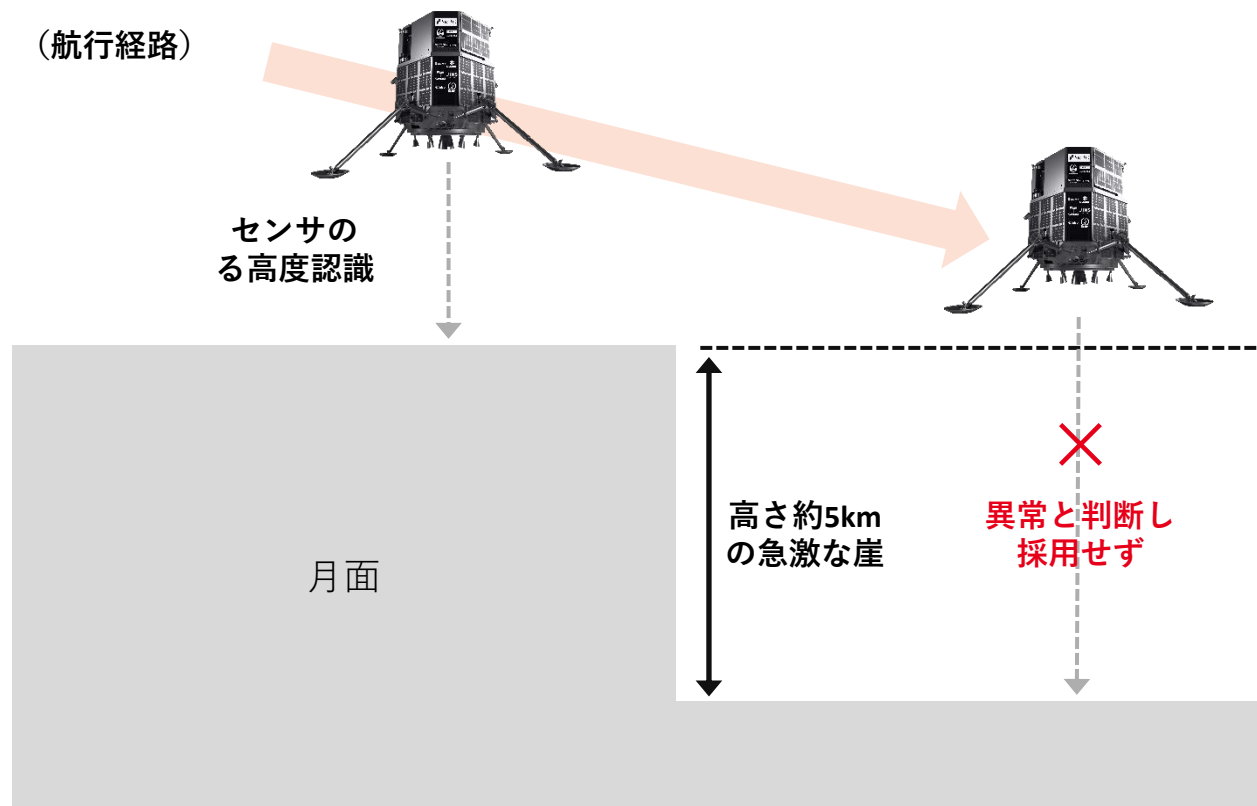
Success 10  
月面着陸後の  
安定状態の確立  
[未達]

※ 上図はあくまでイメージです

民間企業として初めて月面へ最終降下フェーズまで到達。今後のミッションに活用できる貴重なデータを獲得し、ミッション1の結果を踏まえたミッション2以降に係る方針を策定



失敗の要因は「高度の誤認識」：想定外の高度変化をセンサ異常と捉えてしまったことが問題。当不具合は、ミッション2では既に修正対応済み

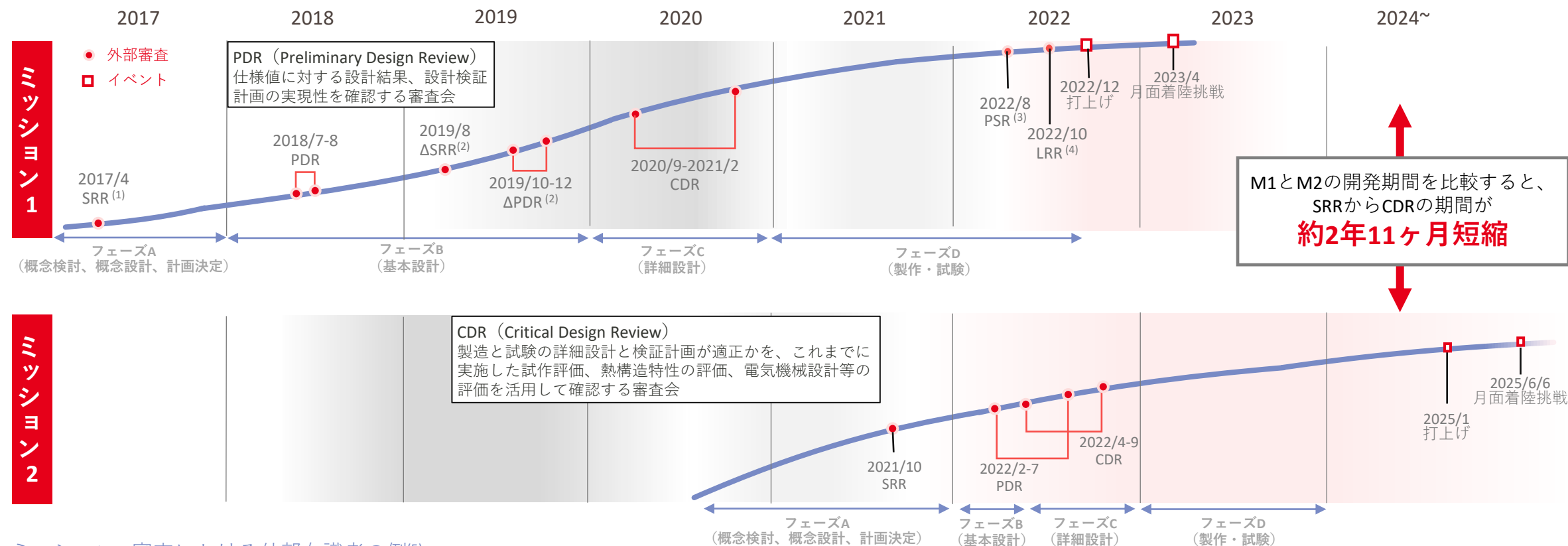


- 月面着陸直前、高度センサが瞬間的に急激な高度変化を感知
- システムはこれを異常による誤情報と判断し、以降、センサによる高度情報を採り入れず航行



- 実は瞬間的な高度変化は、航行経路上の高さ約5kmもの崖によるもので、センサは正しかった
- 実際には上空にありながら、ランダーは安定した月面着陸姿勢に入る（最終的には燃料が尽き落下）

ミッション成功の確率を高めるため、マイルストーンごとに審査を実施。中でも本格的な資本投下の直前に設定されるPDR及びCDRは重要なKPI。ミッションを重ねるごとに効率化及び質の向上を図る

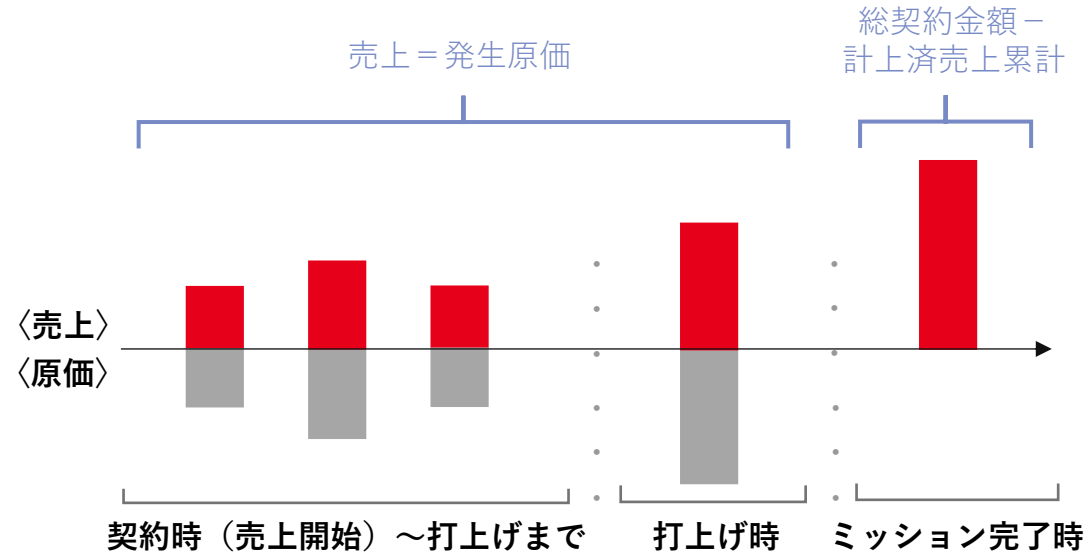


ミッション1 審査における外部有識者の例<sup>(5)</sup>



(1) System Requirement Review：ビジネス要件とシステム要件の整合性を確認の上、システム設計開始を承認する審査会 (2)ランダーの仕様変更を決定したため改めて実施  
(3) Pre-Shipment Review：試験結果の確認及び、打上げ場への輸送承認を行う審査会 (4) Launch Readiness Review：ロケットへのインテグレーション作業終了の確認及び、打上げと初期運用への移行承認を行う審査会 (5) 所属は審査時点

## 当社は原価回収基準が適用されるケースが多く、その売上計上は原価発生に連動



### 当社が適用する原価回収基準

#### ミッション完了まで：

- ・ 顧客からの前入金が売上計上額の上限
- ・ その範囲内で、発生した原価と同等金額を売上として計上
- ・ つまり、ミッション単体で見た粗利は常にゼロ

#### ミッション完了時：

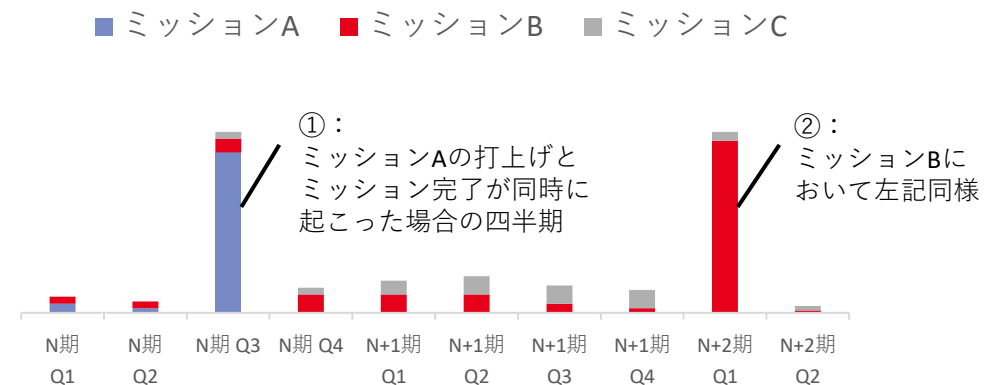
- ・ 顧客からの入金額が売上計上額の上限となるのは不変
- ・ ミッションの総契約金額から、それまでに計上した売上を除いた金額を、完了時の売上として一括計上
- ・ つまり、完了時点で初めてミッション単体での粗利を認識

## 四半期売上は時期により偏りが発生しやすいため、ミッション単位での総契約金額が当社のKPI



### 総契約金額<sup>(1)</sup>

- 総契約金額を2-3年かけて売上計上しており、ミッション単位での総契約金額＝ミッション単位での累計売上額となる
- つまり、総契約金額は将来的な売上の先行指標
- 四半期売上と比較し、総契約金額の多寡は当社のビジネス進捗をダイレクトに反映しやすい指標



### 四半期売上<sup>(1)</sup>

- 原価回収基準の場合、①及び②の四半期のように、ミッションの上げ及びミッション完了時に売上が突出して大きくなる
- この売上増は、あくまで会計基準に基づき売上が集中するだけであり、本質的な当社の事業進捗を必ずしも表してはいない

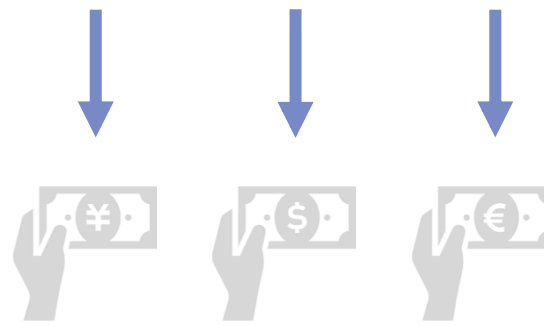
(1) 上記グラフはあくまでイメージであり、実際の総契約金額や四半期売上を示すものではありません。また、ミッション成否により総契約金額通りの売上が計上出来ない可能性があります

## ミッション成否による売上計上への影響は限定的



### 解約不可かつ返金不要の契約

- ペイロード契約は原則、顧客事由での中途解約は不可、かつ返金義務はないため、入金済の金額の返還義務は発生しない<sup>(1)</sup>



### 約9割が打上げ前に入金予定

- ミッション3までの締結済の全てのペイロード契約を平均すると、契約金額の約9割が打上げ前に入金される定め<sup>(1)</sup>
- 打上げ後に一部入金を設定されていても、最終的なミッション成否に関わらず、条件達成状況に応じて入金される

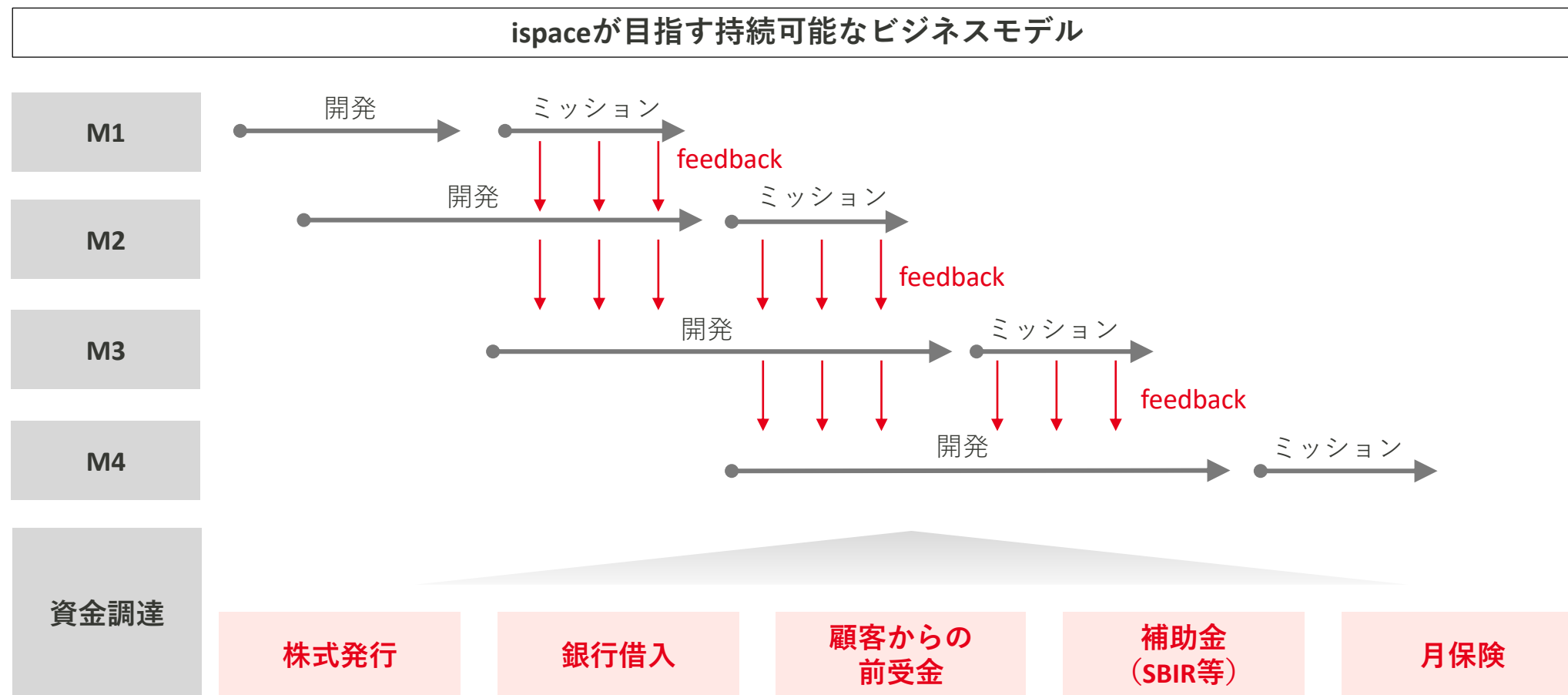


### ミッション1・2での影響は約8%のみ

- ミッション1においては総契約金額10MM USDのうち約0.7MM USDが、ミッション2においては総契約金額16MM USDのうち約1.5MM USDが着陸未達によって売上が減少したものの、平均約8%とその影響は限定的

(1) 重大な契約違反の場合は除く

複数ミッションを並行開発し、先行ミッションから得た経験を後続ミッションへ適時・適切に伝達し技術の成熟度を高めるモデル。この並行開発を支える強固な財務基盤が不可欠



|                    | 2024年3月期 |       |        |        |        | 2025年3月期 |        |         |           |         | 2026年3月期 |
|--------------------|----------|-------|--------|--------|--------|----------|--------|---------|-----------|---------|----------|
|                    | M1完了     |       |        |        |        |          |        |         | M2<br>打上げ |         |          |
|                    | Q1       | Q2    | Q3     | Q4     | 通期     | Q1       | Q2     | Q3      | Q4        | 通期      | Q1       |
| (単位：百万円)           |          |       |        |        |        |          |        |         |           |         |          |
| 売上高 <sup>(1)</sup> | 815      | 514   | 496    | 530    | 2,357  | 635      | 706    | 647     | 2,755     | 4,743   | 1,165    |
| 売上原価               | 243      | 400   | 377    | 407    | 1,428  | 528      | 609    | 483     | 879       | 2,499   | 934      |
| 売上総利益              | 571      | 114   | 118    | 123    | 928    | 107      | 97     | 163     | 1,877     | 2,244   | 231      |
| 売上総利益率             | 70.1%    | 22.2% | 23.9%  | 23.3%  | 39.4%  | 16.9%    | 13.8%  | 25.3%   | 68.1%     | 47.3%   | 19.9%    |
| 販売管理費              | 1,681    | 1,045 | 1,826  | 1,876  | 6,429  | 2,402    | 1,536  | 2,863   | 5,238     | 12,039  | 2,475    |
| 研究開発費              | 1,065    | 571   | 1,060  | 1,137  | 3,834  | 1,411    | 791    | 1,506   | 4,022     | 7,730   | 1,236    |
| 給料及び手当             | 222      | 208   | 296    | 269    | 997    | 475      | 297    | 413     | 337       | 1,522   | 518      |
| その他                | 392      | 265   | 469    | 469    | 1,598  | 516      | 447    | 943     | 880       | 2,786   | 721      |
| 営業損益               | △1,109   | △931  | △1,707 | △1,752 | △5,501 | △2,295   | △1,439 | △ 2,699 | △3,362    | △9,795  | △2,243   |
| 為替損益               | 288      | 115   | △499   | 737    | 641    | 858      | △2,223 | 1,896   | △1,175    | △644    | △304     |
| その他                | △553     | △66   | △125   | △491   | △1,237 | △139     | △552   | △186    | △18       | △895    | △331     |
| 経常損益               | △1,375   | △882  | △2,332 | △1,507 | △6,097 | △1,576   | △4,214 | △989    | △4,555    | △11,334 | △2,878   |
| 当期純損益              | △1,374   | 2,912 | △2,374 | △1,529 | △2,366 | △1,579   | △4,812 | △973    | △4,581    | △11,945 | △2,879   |

(1) 当社はこれまでに、ミッション1-3の売上計上においてそれぞれ原価回収基準を用いておりますが、2025年3月期Q4からは、ミッション2において「履行義務の進捗度に基づき収益を認識する方法」を用いて売上を計上

| (単位：百万円) | 2024年3月期 |        |        |        | 2025年3月期 |        |        |        | 2026年3月期 |
|----------|----------|--------|--------|--------|----------|--------|--------|--------|----------|
|          | Q1       | Q2     | Q3     | Q4     | Q1       | Q2     | Q3     | Q4     | Q1       |
| 流動資産合計   | 10,078   | 13,525 | 13,485 | 21,784 | 21,220   | 22,527 | 20,181 | 19,067 | 30,742   |
| 内 現金及び預金 | 7,611    | 11,522 | 9,676  | 14,315 | 12,673   | 13,153 | 13,233 | 13,117 | 26,460   |
| 内 短期前渡金  | 1,877    | 1,486  | 3,158  | 4,228  | 4,928    | 5,622  | 5,706  | 3,620  | 3,358    |
| 固定資産合計   | 1,756    | 4,878  | 4,828  | 5,248  | 5,341    | 6,018  | 6,649  | 8,121  | 8,221    |
| 内 有形固定資産 | 476      | 1,000  | 2,126  | 2,462  | 3,092    | 3,480  | 3,929  | 4,859  | 4,804    |
| 内 長期前渡金  | 1,140    | 3,616  | 2,465  | 2,560  | 1,965    | 2,310  | 2,473  | 2,997  | 3,110    |
| 総資産合計    | 11,835   | 18,403 | 18,314 | 27,033 | 26,561   | 28,545 | 26,831 | 27,189 | 38,964   |
| 流動負債合計   | 4,346    | 7,913  | 7,772  | 10,503 | 12,076   | 9,081  | 7,310  | 3,854  | 3,896    |
| 内 前受金    | 3,265    | 3,932  | 3,618  | 3,190  | 3,214    | 3,758  | 3,305  | 2,695  | 2,320    |
| 固定負債合計   | 4,871    | 4,877  | 6,866  | 6,784  | 6,471    | 14,081 | 14,907 | 16,326 | 31,293   |
| 内 長期借入金  | 4,570    | 4,570  | 6,570  | 6,538  | 6,224    | 13,830 | 14,701 | 16,096 | 31,095   |
| 純資産合計    | 2,617    | 5,612  | 3,675  | 9,745  | 8,013    | 5,383  | 4,613  | 7,007  | 3,775    |
| (有利子負債)  | 5,029    | 8,020  | 10,020 | 12,518 | 14,054   | 18,083 | 17,231 | 16,096 | 31,595   |

## 本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。